

令和4年度

事業報告書

社会福祉法人 神戸市社会福祉協議会

目 次

I	はじめに	1
II	令和4年度事業報告【概要】	2
III	令和4年度事業報告	
	ミッション1 気づき・共感を育む	
	福祉の心を育む「ふれあいのまちKOBE・愛の輪運動」の推進	7
	ボランティア活動の推進	8
	福祉人材育成のための各種研修事業の実施	10
	情報発信の充実	16
	ミッション2 ぐらしに寄り添う	
	地域福祉ネットワーク事業・生活困窮者支援	18
	児童就学・次世代育成支援	21
	権利擁護に関する取り組み	22
	介護保険サービス等の提供	27
	認知症支援事業	34
	障害者地域生活支援拠点の運営	36
	障がい者のスポーツ・文化の振興	41
	点字図書館の運営	50
	障害者福祉基金を活用した助成事業	55
	神戸ふれあい工房の運営	56
	子ども・子育て支援	57
	地域福祉施設の管理運営	72
	神戸市介護サービス協会事務局の受託	72
	ミッション3 つながり、支え合う	
	地域福祉活動の推進強化	74
	神戸市民生委員児童委員協議会事務局の運営	77
	福祉団体、NPOやボランティアグループへの助成	78
	災害支援の取り組み	79
	民間社会福祉施設の振興	79
	多様な福祉活動参加の推進	80
	活動を支える体制の強化	82

I はじめに

本会では、2021年度（令和3年度）から2025年度（令和7年度）の5か年計画として、「こうべ」の社会福祉協議会 地域福祉推進計画2025」を策定し、次のとおり、ビジョンと3つのミッションを定めました。

ビジョン “こうべ”の社協が実現したい未来の姿

拡げる理解 拡がる参加 お互いさまの地域づくり

地域の皆さんの一人ひとりが主役となって、様々な立場の人たちが手を取り合って進める誰もが幸せを感じることができる地域づくり

ミッション “こうべ”の社協が行うこと

気づき・共感を育む

ともに支え合う社会にするためには、くらしの困りごとを抱えている誰かの存在に気付くこと、その方の悩みに寄り添う気持ちを抱くこと、誰もが持っている優しさや思いやり、助け合いの気持ちを育み拡げることが大切です。

“こうべ”の社協は、くらしの困りごとを解決するため、地域の皆さんの助け合いの気持ちを後押しし、福祉の心の輪を拡げます。

くらしに寄り添う

障がいがあっても、高齢になっても、住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けたい。

そんな想いを形にできるように、一人ひとりの悩みを受け止め、「くらしを守り、自分らしく生きる」ための働きかけを、ご本人に寄り添いながら進めます。

生きがいややりがい、地域とのつながりづくりを意識しながら福祉の専門職や地域の皆さんと一緒に、一人ひとりのくらしを支えていきます。

つながり、支え合う

ともに支え合う社会にするために、自分のまわりに少しだけ目を向け、心を寄せ、その人らしさを認め合える地域を目指します。

人それぞれの得意と苦手をうまく補い合いながら、互いに支え合い、将来の自分を含む全ての人が幸せになる取り組みを進めていきます。

令和4年度は、この“こうべ”の社会福祉協議会 地域福祉推進計画2025の趣旨に基づき、ミッションの達成にむけてそれぞれの関連する事業に取り組みました。

Ⅱ 令和4年度事業報告【概要】

ミッション1 気づき・共感を育む

福祉の心を育む「ふれあいのまち KOBE・愛の輪運動」の推進

地域福祉への参画を促進するため福祉教育・啓発活動に取り組んだ。

「愛の輪ポスター」の作品募集では、子どもたちが福祉の心を表現したポスターを制作する過程で日々の暮らしの中にある福祉に思いを巡らせ、福祉を身近なものと感じることをねらいとして応募を募った。

障がい者に対する理解を深める取組みである「障がいサポーター養成講座」では、出前形式で座学や疑似体験による学びの機会を提供した。昨年度から取り組んでいる「未来言語」というツールを用い、各自が“見えない”、“聞こえない”、“話せない”状態で協力しながら課題に取り組む中で相手の立場に立って考えることの大切さや、日々のくらしでの障がい者への心配りなどについて考える機会とした。

福祉施設での「福祉体験学習事業（ワークキャンプ）」は、新型コロナウイルス感染症の状況を注視しながら実施に向けた準備を進めた。1,178名の応募と349施設の協力の申し出を得られていたが、直前に感染の拡大の兆しが見られたことから令和2、3年度に引き続き中止と判断した。

福祉人材育成のための各種研修事業の実施

市民の福祉に関する理解と参加を促進し、ボランティアから社会福祉事業者まで、幅広い福祉人材の育成と資質の向上を図るために、市民福祉大学の運営を行った。

新型コロナウイルス感染症の影響により計画していた研修の一部を中止することとなったが、昨年度に引き続きZoomやYouTubeを使用したオンライン研修を実施した。また、視聴環境が未整備の方には配信会場で受講できる環境やDVDの貸出を行い、コロナ禍においても学びを止めることがないよう研修を提供した。

認知症高齢者に対する介護サービスの充実を目的に、高齢者介護の指導的立場にある職員及び介護業務従事職員を対象に、厚生労働省通知に基づく研修を実施した。

ミッション2 くらしに寄り添う

地域福祉ネットワーク事業・生活困窮者支援

〈地域福祉ネットワーク事業〉

生活福祉資金の特例貸付相談を入りに、収入の減少にとどまらない生活支援を市・区社協で展開した。

相談者の中には従来から課題を抱えている方が多くみられ、相談件数が増加した。これらの相談の中には貸付だけの対応でなく、現行制度では対応が難しい課題が複合化しており、各専門職が連携して個別の課題を対応してきた。

しかし、個別の対応を進めるだけでは根本解決に至ることが難しい事例も多く、新たな仕組みづくりも行った。中でも孤独・孤立の課題を抱えた方や就労の課題を抱えた方を対象とした『居場所』活動が各区に整い、区の特徴を活かした居場所が全市で行われている。

また、地域福祉ネットワーク事業が10年間で取り組んだ困難な事例を通して、参加者と地域課題を社会化し、次の時代の取り組み方針を導き出すことを目的に地域福祉ネットワー

ク事業「未来会議」を開催した。

〈生活福祉資金貸付事業〉

生活に不安を抱えた低所得、障がい者世帯の方々に、資金の貸付と合わせて必要な相談支援を行う「生活福祉資金」では、コロナ禍で増加する教育支援資金をはじめとする貸付相談に対応した。

また、新型コロナウイルス感染症の影響を受け減収となった方を対象とする「新型コロナウイルス特例貸付」の申請が令和4年9月末で終了し、令和5年1月から開始となった償還（返済）に関し、返済が困難な借受世帯に対し、償還免除申請手続きの支援を各区で行った。

加えて、実施主体である県社会福祉協議会との連絡調整を担い、区社協に対して情報提供や課題の吸い上げ、県社協への要望を行った。

〈“コロナ禍”の影響を受けた人々を支援する特別緊急支援事業〉

「就活応援プロジェクト」と題し、新型コロナウイルス感染症に伴い、離職を余儀なくされ、再就職や転職を目指す生活困窮者や、母子・父子世帯等に相談窓口を通じて就職活動に必要な衣類（スーツやカバン等）の貸し出しを実施主体のNPO法人と行った。

また、地域の居場所応援モデル事業として、休止中のこどもの居場所や高齢者の居場所の再開、新規立上げ、活性化を目的に、寄付いただいた食材と寄付金を活用し、キッチンカーによる温かい食事の提供を行った。

権利擁護に関する取り組み

〈安心サポートセンター〉

高齢者や障がい者等で判断能力に不安のある方々の権利擁護や財産管理に関する相談、支援を行うほか、日常生活自立支援事業（福祉サービス利用援助事業）を中心とした権利擁護支援事業を実施した。

日常生活自立支援事業については、複合的な課題を抱えるケースが増え、利用につなげるまでの支援者の負担が増大していることから、相談機能を強化し、アウトリーチや支援者向け相談の手引きの作成等、利用促進を目的とした取り組みを進めた。

また、成年後見制度の利用が必要な利用者について、適切に移行を進めるため、成年後見移行促進員を配置し、関係機関と連携して移行促進を図った。

〈成年後見支援センター〉

神戸市の権利擁護施策の拡充により、神戸市成年後見支援センターが権利擁護にかかる地域連携ネットワークの中核を担う機関（中核機関）と位置づけられたことを受け、中核機関に求められる4つの機能（①広報・啓発機能、②相談機能、③制度の利用促進機能、④後見人支援機能）の充実を図った。

令和4年度は、市民後見人候補者の協力による広報動画の作成、区社協とのコラボセミナー等の開催など広報機能の強化、法人後見及び市民後見人候補者の受任促進に取り組んだ。

また、第二期成年後見制度利用促進基本計画に基づき、日常生活自立支援事業からの成年後見制度移行を適切に進めるため、安心サポートセンターと連携して後見移行促進フローを作成し、移行を促進した。

介護保険サービス等の提供

長田在宅福祉センターにおいて通所介護事業、西在宅福祉センターにおいて認知症対応型通所介護事業を実施した。また、初期・若年性認知症特化型通所介護（毎週木曜日）については新型コロナウイルス感染拡大防止のため休止した。

認知症支援事業

既存の制度だけでは、生活ニーズの充足が困難な若年性認知症の方への支援を行うため、月1回本人同士、家族同士が安心して、自己実現や情報交換ができる居場所として交流の場「ソレイユ」を実施した。本人・家族の自己実現、情報交換、レクリエーション、病気や制度についての勉強会を目的に開催した。令和4年度はのべ115名の参加があった。

障害者地域生活支援拠点の運営

障がい者等やその家族が、安心して生活しつづけるための支援拠点となる「障害者地域生活支援拠点」を運営し、介護者が病気等で急に不在となった障がい者を短期入所に緊急で受け入れるなどの役割を果たした。また、地域で生活する障がい者の見守り体制の構築を進めた。

令和4年度は、西区に続き、須磨区障害者地域生活支援拠点でも共生型サービスを開始し、65歳を迎える利用者が、通いなれた事業所でサービスを継続利用できるよう、介護保険制度に基づく共生型通所介護事業所として指定を受け、高齢障がい者へのサービス提供を強化した。

また、開設より5年目を迎える西区障害者地域生活支援拠点において、安定した運営を検証するため、他法人施設経営者、コンサルティング業者等を委員に経営改善小委員会を開催し財務分析を行った。

さらに、学識経験者、障害福祉連盟長、当事者会の代表者を委員に在宅福祉センター等経営改善委員会を発足し、小委員会からの財務報告ならびに現状の課題等の運営分析を行い、新たなスキームとして「多機能拠点プラス面的整備」を神戸市に提言した。

障がい者のスポーツ・文化の振興

障害者の福祉の向上に寄与するため、関係団体や企業の協力・支援のもと、障害者スポーツ大会や作品展等を開催することで、障がい者の機能回復と健康の増進を図り、社会的自立と社会参加を促進した。また、広報誌やホームページなどによる積極的な情報発信や市民との交流を深め、障がいへの理解を広げることに努めた。

令和3年度までは新型コロナウイルス感染症の影響を受け、スポーツ大会・各種教室ともに多くの事業が中止となったが、令和4年度は神戸市障害者スポーツ大会を3年ぶりに開催するなど、概ね計画どおり事業を進めることができた。

また、地域展開事業や出前教室などのニーズが徐々に増え、これに応える形で学校や児童館、地域のイベントなどで障害者スポーツを体験できる機会を提供した。

さらに、2024年度に神戸市で開催が予定されている世界パラ陸上競技選手権大会に向け、大会組織委員会と連携し、「パラスポーツ王国 HYOGO&KOBE 2022」において、スポーツ義足の特別体験会のブースを設置したほか、「第6回こうべ障がい者芸術フェスタ HUG+（ハグ・プラス）展 2022」の会場で特別展示を行うことで、大会の認知度向上を図り、障害者スポーツの啓発を行った。

点字図書館の運営

視覚障害者情報提供施設として、視覚障害者の生活の自立と社会参加の向上を図り、生活や文化の質が豊かになるように幅広く情報提供を行った。

令和4年度は引き続き新型コロナウイルス感染症の影響を受け、館内での点訳・音訳等の作成を担うボランティア活動や対面朗読サービス、対面による機器相談、中途失明者の点字教室、福祉体験学習も縮小するなどして実施した。コロナ禍であっても可能な限り従来と変わらないサービス提供に努めた。

また、読書バリアフリー法に基づき、読書が困難な障がい者が安心して自立した生活を送れるよう、情報サービスの充実を図ったほか、視覚障がい者等の読書環境の整備に向けた取り組みを推進するため、中央図書館、神戸市、教育委員会、本館が集まり連携体制構築に向けた打合せ会を開催した。

子ども・子育て支援

〈こべっこランド〉

昭和62年ハーバーランドでの開館当初から管理運営を担ってきたこべっこランドが令和5年1月に閉館し、同年2月に兵庫区和田岬に移転した。移転後は、キッズガーデンや屋内外の大型遊具が新たに設置され、安全に配慮し運営を行った。

〈児童館〉

令和4年度は長田区の児童館指定管理者公募に応募した結果、6館の指定管理者に指定された。

新型コロナウイルス感染症の拡大が続く中、感染防止策を行い通常の児童館運営を行ったことで、令和3年度より学童保育クラブを含む利用者数は、増えている。

また、新型コロナの影響が大きく子育てに関する相談件数は8,224件で、令和3年度に続き件数は多く、子育て家庭の多様なニーズに伴い、より一層寄り添う支援を行った。

ミッション3 つながり、支え合う

地域福祉活動の推進強化

区社協との連携として「地域福祉推進基金」を活用し、地域住民やボランティア等との協働のもとで、区社協が実施する地域福祉の推進を目的とした事業、各区社協の法人基盤の強化も含めた経費の助成を行った。

また、市・区社協の理事長などの役職員が一堂に会し、地域福祉の推進に向けた意見交換などを行うことにより、「こうべ」の社会福祉協議会として、今後の進むべき方向性について、共通認識を深めるため、区社協役員協議会を開催した。

「コロナ禍で問いかけていること ～生活困窮や社会的孤立への支援、災害支援に社会福祉協議会ができること～」をテーマとした基調講演を実施し、地域の新たな生活課題についての共有を行った。

神戸市民生委員児童委員協議会事務局の運営

神戸市民生委員児童委員協議会事務局として、区民児協との連絡調整や資質向上のための研修会等の開催や共済事業などに関する事務を担った。

令和4年度は、民生委員・児童委員一斉改選に伴う、新任委員への研修、退任委員への共済給付等を行った。

また、令和3年度に9名の常任理事にタブレットの配布を行ったことに続き、全地区民児協会長（166地区）へのタブレットの配布（計175地区）と講習会を年度当初配付時と一斉改選後に開催した。

災害支援の取り組み

ウクライナ戦争被害に対する神戸市内避難者への支援募金を実施し、避難者の神戸市内での生活支援のために配分を実施した。

また、令和5年2月6日に発生した、トルコとシリア国境付近を震源とする地震被災者への災害救援募金を実施した。

民間社会福祉施設の振興

神戸市内の民間社会福祉施設の経営者ならびに従事職員の相互扶助を目的とした退職手当共済事業を実施した。

令和3年度からは、将来にわたり安定した制度運営を図る目的で、①退職手当給付金額の計算方法の見直し、②退職手当給付金の支払要件の変更、③事務負担金の創設、④運用利率の引き下げといった大幅な制度改定を行い共済財政の改善に取り組んでいる。

活動を支える体制の強化

市・区社協事業推進・改善検討会議を開催し、職員採用、人材育成について検討を行った。また、令和4年度は市・区社協が連携して地域生活課題への対応を始め地域福祉活動を一層推進すること、法人運営規律の強化を図ること、効率的な事業運営や人が育つ組織体制を構築することを目的に、市・区社協の法人合併も含めた組織体制を協議するため区社協及び市社協の役員で構成する「市・区社協組織体制あり方検討会」を設置し、事業推進体制について協議を進めた。

Ⅲ 令和4年度事業報告

ミッション1 気づき・共感を育む

福祉の心を育む「ふれあいのまち KOBE・愛の輪運動」の推進

(1) ふれあいのまち KOBE・愛の輪運動

ソーシャルインクルージョン（社会的包摂：だれもが潜在能力を発揮でき役割を持つてつながり合う地域社会づくり）の理念に基づいた「思いやり」「譲り合い」「助け合い」の福祉の心を育み、ボランティアなどの実践活動に結びつけることを目的とした神戸の市民運動「ふれあいのまち KOBE・愛の輪運動」を推進した。

①愛の輪ポスター・障害者週間のポスターの募集

福祉教育の一環として、福祉の心を表現した「愛の輪ポスター」、障がいのある人に対する理解を広めるポスター「障害者週間のポスター」を募集し、福祉に関する啓発を図った。

愛の輪ポスター・障害者週間のポスター

応募総数 462 点（小学生の部 372 点、中学生の部 86 点、高校生の部 4 点）

②愛の輪ポスター・障害者週間のポスター展（入賞作品）

ア. こうべ市民福祉交流センター 令和4年12月3日(土)～12月9日(金)

イ. 花時計ギャラリー 令和5年1月12日(木)～1月18日(水)

③「愛の輪ポスター、障害者週間のポスター、心の輪を広げる体験作文、表彰式」の開催

実施日 令和4年12月3日(土)

場 所 こうべ市民福祉交流センター

参加者 70 人

④「温かい手」の発行

愛の輪ポスター・障害者週間ポスターの入賞作品集「温かい手」を 550 部発行した。

⑤高校生介護体験特別事業

神戸市立須磨翔風高等学校を指定（3年間指定の3年目）、年間を通じて介護体験を含む特別事業に助成を行った。

(2) ボランティア・福祉体験学習用資機材の貸出し

市内の学校・事業所等が実施する福祉学習や介護、ボランティア研修を対象に車いす、アイマスクや携帯点字板等の貸出しを行った。

【貸出状況】

(個数)

車いす	アイマスク	白杖	点字板	合計
97	44	196	155	492

(3) ボランティア活動の支援

愛の輪会員の企業・労働組合によるボランティア活動への取り組みを支援し、社会的養護の対象者の自立支援施設等への電化製品の寄贈や、障害者施設への音楽療法用の楽

器の寄贈、「こうべ福祉・健康フェア」へのブース出展等、団体の特色を生かした社会貢献活動の推進に取り組んだ。

(4) 障がい者への理解を深める取り組み

各障がいの基本的な知識理解、障がいのある方への配慮や接し方等についての啓発のため、学校や団体に対し「障がいサポーター養成講座」を実施した。

(実施回数 10回、講座受講 557人)

六甲アイランド高校・須磨翔風高校・神戸甲北高校・コープこうべくらしの助け合いの会の協力のもと、「未来言語」というコミュニケーションツールを用いた福祉に関する出前学習・啓発を行った。

(再掲：実施回数4回、講座受講113人)

(5) 中・高校生の社会福祉施設での福祉体験学習（ワークキャンプ）

新型コロナウイルス感染症の拡大により、ワークキャンプ及び福祉体験作文の募集を中止した。

(6) 福祉体験事業の実施

① 「こべっこマルシェ」の実施

福祉の啓発を目的に、小学生が事業所製品を利用者やスタッフと一緒に作成し交流を図るとともにこべっこランドロビーなどで販売活動を行った。

実施日 令和4年7月3日（日）

参加者 児童保護者 30人 福祉事業所スタッフ 6人・利用者 11人

② 点字図書館と児童館による福祉体験協働事業

障がい者福祉について学ぶ機会を提供し、子どもの福祉の心の醸成を目指すことを目的に点字図書館の紹介・点字体験等を実施した。

※新型コロナウイルス感染症のため1館、1コーナー中止。

	有瀬児童館
実施日	令和4年8月17日（水）
参加者	児童30名、児童館職員1名、ボランティア2名、実習生1名

(7) 本会運営施設等での福祉学習の推進

① トライやるウィーク 児童館 43館3コーナー・985人
在宅福祉センター 2人

② 視覚障がい学生の職場体験実習 点字図書館（県立視覚特別支援学校）中止

ボランティア活動の推進

(1) ボランティアの支援

① 区ボランティアセンターの支援

「ボランティア情報システム」の運用を通じて、ボランティアに関する情報管理の効率化等、区ボランティアセンターの業務支援を行った。

ボランティアコーディネーターの連絡会を月1回開催し、区ボランティアセンター業務に関する情報共有と意見交換を行い、業務の質的向上に取り組んだ。

昨年度実施した神戸婦人大学との連携により、今年度は神戸婦人大学1年生を対象

としたボランティア講座を実施した。(実施回数：1回 参加者数：約70名)。

また、神戸市が高齢者の社会参加の促進を目的に令和2年9月から開始した「KOBEシニア元気ポイント制度」に対し、引き続き活動者向けの講義を行うなど事業に協力した。

②ボランティアコーディネートの実施

各区ボランティアセンターにおいて、ボランティアの助けを必要とする依頼者の要望等を伺い、その依頼に協力してくれるボランティアを紹介する「ボランティアコーディネート」を実施し、市民によるボランティア活動の推進に取り組んだ。

コーディネート実績（全区計）

	ニード件数	調整完了件数	紹介率
令和4年度	732	583	79.7%
令和3年度	524	397	75.8%

③市・区社協ボランティア登録数(令和5年3月末)

	団体登録数	団体所属人数	個人登録数
令和4年度	2,828	119,453	2,372
令和3年度	2,418	105,110	2,274

④各種ボランティア保険の受付等

ボランティア活動中の事故に備えた、市民活動災害共済等各種ボランティア保険加入受付事務及び連絡調整を行うとともに、市民からの問い合わせ等に対応した。

【ボランティア保険・共済受付状況（兵庫県社会福祉協議会管轄分）】

保険種別	市民活動災害共済	天災危険補償	行事用保険	合計
件数	132件	1件	37件	170件
加入者数	4,505人	29人	2,070人	7,148人

【ボランティア保険受付状況（全国社会福祉協議会管轄分）】

保険種別	ボランティア活動保険	ボランティア行事用保険	福祉サービス総合保障	合計
件数	4件	141件	16件	161件
加入者数	111人	1,291人	1,138人	2,540人

⑤ボランティア活動の支援

ア. 神戸市社会福祉協議会ボランティア基金 ボランティアグループ活動助成

ボランティア基金を活用した市内のボランティアグループに対する助成制度を運営し、申請グループに対し助成を行った。(当該制度は市・区間の助成金の不均等の緩和や助成制度の無い区への補完、草の根グループの支援を目的として、令和2年度より区ボランティアセンター登録の団体にも対象枠を拡大)

今年度は新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、実績日数や対象経費の要件緩和の特例措置を講じて助成を実施した。

申請団体数：102件 助成団体数：99件 助成額：1,170,000円

イ. 県民ボランティア活動助成

ひょうごボランティアプラザが実施する県民ボランティア活動助成について、

市内で活動するボランティアグループからの申請受付を行った。

エントリー受付件数：526件 助成決定件数：525件

ウ. ボランティアルームの貸し出し

市・区社協登録のボランティアグループを対象に、ボランティア活動や会議に用いるための貸室を管理・運営した。加えて、市社協登録グループに対しては、会報の作成等に使用する輪転機を有料で貸し出しを行った。

エ. 各種ボランティア関係情報の収集・提供

区ボランティアセンターや各団体から寄せられたボランティア募集や講座情報についてこうべ市民福祉交流センター内のパンフレットラックや本会ホームページを用いて発信した。

(2) 地域福祉活動の担い手の育成

①総合児童センター（こべっこランド）

子どもの遊びをサポートすることを目的に大学生、社会人、中高生ボランティアがイベントの運営補助をおこなった。

また、発達障がいセミナーの修了者が療育サポーターとして療育指導事業で活動した。（延べ活動人数 977人）

②児童館

絵本の読み聞かせ、人形劇、将棋教室、学習支援等ボランティアとの協働により、魅力ある児童館活動の展開を図った。（延べ4,827人※学童保育コーナー含む）

③在宅福祉センター

デイサービスでの利用者との話し相手や行事のお手伝いなど、ボランティアを積極的に受け入れていたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、必要最小限にとどめることとなった。（延べ998人）

④障害者スポーツ振興センター

多くの市民に障害者スポーツに関わっていただくとともに、地域で障害者スポーツの活動を推進していくため、神戸市障害者スポーツリーダーを養成し、大会や教室へ派遣した。（登録者398人、派遣延べ641人）

⑤点字図書館

点訳・音訳及びテキストデイジーのボランティアを育成し、蔵書の製作やプライベートサービス・公的情報の点訳・音訳依頼等に、ボランティアグループと協働して取り組んだ。（161人）

福祉人材育成のための各種研修事業の実施

(1) 市民福祉大学の運営

市民の福祉に関する理解と参加を促進するとともに、ボランティアから社会福祉事業者まで幅広い福祉人材の育成と資質の向上を図るため、市民福祉大学の運営を行った。

新型コロナウイルス感染症の影響により計画していた研修の一部を中止することとなったが、昨年度に引き続き Zoom や YouTube を使用したオンライン研修を実施した。また、視聴環境が未整備の方には配信会場で受講できる環境やDVDの貸出を行い、コロナ禍においても学びを止めることがないよう研修を提供した。

《研修・講座の実施実績》

区 分	開催本数	開催日数	参加者	延べ参加者
市民対象講座	8	50 日	306 人	1,090 人
地域活動者対象研修	10	10 日	853 人	853 人
社会福祉事業従事者研修	40	51 日	1,139 人	1,272 人
区ボランティアセンター実施講座	80	448 日	1,889 人	5,313 人
合 計	138	559 日	4,187 人	8,528 人

《YouTube 動画配信実績》

区 分	開催本数	動画配信日数	動画再生回数
市民対象講座	2	41 日	682 回
地域活動者対象研修	3	92 日	750 回
社会福祉事業従事者研修	1	29 日	163 回
合 計	6	162 日	1,595 回

①市民対象講座の開催

ア. ボランティア講座等の開催

講座・研修名	実施日	参加者（延べ参加者）
手話ボランティア養成講座基礎編(昼クラス)	10月5日～3月8日 (20日)	18人(301人)
手話ボランティア養成講座基礎編(夜クラス)	10月5日～3月8日 (20日)	24人(405人)
精神保健福祉ボランティア講座	9月6日・12日・20日 ・10月7日	44人(145人)
視覚障がい者のためのガイドボランティア講座	10月27日・28日	19人(38人)
合 計		105人(889人)

イ. 市民活動・啓発講座等の開催

講座・研修名	実施日	参加者
市民福祉セミナー① 「思春期の子どものころとからだ」 ～発達障がいのある子が悩むこと～	10月12日	64人
	(動画視聴期間 10月26日～11月24日)	YouTube再生回数402回
市民福祉セミナー② 「『ひきこもり』から考える ～だれもが生きやすい社会とは～」	3月2日	104人
	(動画視聴期間 3月20日～3月30日)	YouTube再生回数280回
地域人材育成研修① 「地域・福祉・活動の基本を学ぼう！」	7月13日	15人
地域人材育成研修② 「協働の作法を学ぼう！」	8月3日→中止	—

地域人材育成研修③ 「地域の課題を探り、解決する方法を学ぼう！」	9月27日	18人
合 計		201人
		YouTube 再生回数 682回

②地域活動者研修の実施

ア. 民生委員・児童委員研修の実施

研 修 名	実施日	参加者
新任研修 (一斉改選による委嘱)	12月2日～1月10日 (動画視聴期間)	319人
中堅研修	6月27日～7月27日 (動画視聴期間)	DVD 貸出 30件 YouTube 再生回数 310回
地区民児協会長・副会長研修	2月28日	269人
主任児童委員研修	11月25日～12月26日 (動画視聴期間)	DVD 貸出 4件 YouTube 再生回数 159回
児童委員研修	2月27日～3月27日 (動画視聴期間)	DVD 貸出 15件 YouTube 再生回数 281回
スキルアップ研修①Aコース	7月15日	50人
スキルアップ研修①Bコース	7月29日	33人
スキルアップ研修②Aコース	12月13日	33人
スキルアップ研修②Bコース	12月14日	28人
合 計		受講者 732人 DVD 貸出 49件 YouTube 再生回数 750回

イ. 心配ごと相談所相談員研修会の実施

区社協が開設している心配ごと相談所の相談員を対象に、相談所機能の充実を図るため研修を実施した。(令和5年2月9日 参加者72人)

③社会福祉事業従事者対象研修の実施

新任職員から管理職員までがキャリアビジョンを描き、必要な学びや成長を得ることを目指した研修を実施した。今年度はコロナ禍において社会福祉施設の抱える課題として増加傾向にある「ストレスマネジメント」や「カスタマーハラスメント」をテーマとした研修を実施した。

研 修 名		実施日	参加者(延べ参加者)
共通研修	記録の書き方研修	6月22日	52人
	ストレスマネジメント研修	6月24日	28人
	カスタマーハラスメント研修	7月21日	81人
新任研修	現場で使えるマナー研修	4月18日	50人
	キャリアビジョンと職業倫理	6月7日	34人
	老人福祉施設職員研修	6月16日	15人

	児童福祉施設職員研修	7月15日	36人
	保育教諭・保育士研修(2コース)	6月6日・7日	39人
	障がい福祉施設職員研修	7月28日	28人
中堅研修	フォローシップと後輩指導研修	8月30日	37人
	老人福祉施設職員研修	12月6日	24人
	児童福祉施設職員研修	2月17日	13人
	保育教諭・保育士研修	3月7日	18人
	障がい福祉施設職員研修	3月16日	31人
	障がい者施設職員スキルアップ研修	2月20日・21日	23人(45人)
	更生福祉施設職員研修(2コース)	10月4日・2月6日	29人
主任職者・ 管理職研修	キャリアビジョンと職業倫理	7月26日	16人
	人材育成と指導法	2月2日・7日	71人
	BCP策定支援研修	3月9日	52人
	リーダーシップ向上研修	10月14日	21人
専門研修	介護技術講座	12月9日	38人
	医学講座	3月13日	30人
	調理技術講座	1月31日	15人
	発達障がい支援者基礎研修	9月28日	53人
	発達障がい支援者専門研修	2月22日	34人
	虐待防止研修(2コース)	11月4日・25日	106人
	虐待防止研修(動画配信)	12月19日～ 1月16日	YouTube再生回数163回
	労務・社会保険講座(2コース)	5月10日・9月22日	39人
	社会福祉法人会計①<超初級編>	4月26日	16人
	社会福祉法人会計②<基礎編>	7月29日	15人
	社会福祉法人会計③<実践編>	11月1日	10人
	社会福祉法人会計④<決算編>	2月2日	21人
	介護事務講座	7月6日	14人
	面接相談スキルアップ(Aコース)	10月14日・28日・ 11月11日	11人(33人)
	面接相談スキルアップ(Bコース)	11月18日・ 12月2日・16日	6人(18人)
	面接相談スキルアップ(Cコース)	1月13日・27日・ 2月10日	14人(38人)
	スーパーバイザー養成講座	8月19日・9月2日・ 16日・30日	19人(72人)
合 計			1,139人(1,272人)
			YouTube再生回数163回

④区ボランティアセンター研修事業

地域に根ざしたボランティアの育成や活動者のスキルアップを目的に、各区ボランティアセンターで各種研修を実施した。

区	講座数	延べ開催日数	参加者（延べ参加者）
東灘	5	42日	102人（691人）
灘	11	63日	305人（334人）
中央	4	29日	133人（479人）
兵庫	5	35日	30人（122人）
北	11	35日	140人（488人）
北神	7	32日	92人（461人）
長田	8	53日	402人（786人）
須磨	11	46日	196人（561人）
垂水	8	58日	158人（711人）
西	10	55日	331人（680人）
合計	80	448日	1,889人（5,313人）

⑤福祉ライブラリーの運営

福祉の専門図書、DVDなどを揃えた福祉ライブラリーを運営し、書籍・雑誌・資料・DVDの閲覧、視聴や貸出を行った。

・書籍収蔵数	8,108冊
・DVD・ビデオ収蔵数	892点
・資料収蔵数	947冊
・雑誌収蔵数	714冊（19タイトル）
・年間来室数	8,487人
・貸出カード発行数	159枚
・書籍・DVD貸出数	3,271点

⑥研修に係る情報提供

研修に関する情報提供を実施した。また、福祉ライブラリーニュースを刊行し福祉関係の新着書籍、DVD等について情報提供を行った。

- ・福祉ライブラリーニュース 年1回発行

(2) 認知症介護実践者等養成研修事業

①神戸市認知症介護研修(従事者対象研修)

認知症高齢者に対する介護サービスの充実を目的に、高齢者介護の指導的立場にある職員及び介護業務従事職員を対象に、厚生労働省通知に基づく研修を実施した。

新型コロナウイルス感染状況を考慮し、オンライン型研修・集合型研修を併用し実施した。他都市との情報共有によりオンライン研修の設備や技術等を発展させながら、より受講しやすい環境設備を図った。

研修名	内 容	開催日程・修了者数
認知症介護 実践者研修	認知症高齢者の介護実務者を対象とした 認知症介護に関する実践研修	① 5月31日～8月25日 (オンライン・集合)・44人 ② 8月2日～10月20日 (オンライン・集合)・47人 ③ 9月6日～11月17日 (オンライン・集合)・27人 ④ 11月15日～2月2日 (オンライン・集合)・44人
認知症介護 実践リーダー研修	介護実務者の指導的立場にある者を対象 とした指導者養成研修	10月14日～1月12日 (オンライン・集合)・39人
認知症介護 サービス事業開設 者研修	認知症介護を提供する事業所代表者を対 象とした基本的な知識及び介護サービス 事業の運営に必要な知識修得のための研 修	11月9日、11月15日 (オンライン)・6人
認知症 対応型サービス 事業管理者研修	認知症介護を提供する事業所管理者等を 対象とした適切なサービスの提供に関す る知識修得のための研修	① 7月6日、7月14日 (オンライン)・29名 ② 11月9日、11月24日 (オンライン)・22人
小規模多機能型サ ービス等計画作成 担当者研修	小規模多機能型居宅介護支援事業所計画 作成者を対象とした利用者及び事業の特 性を踏まえた事業計画を作成するために 必要な知識・技術の習得のための研修	① 7月11日、7月21日 (オンライン・集合)・12人 ② 1月19日、1月25日 (オンライン)・7人
認知症介護指導者 養成研修	認知症介護実践研修を企画・実施するとと もに介護保険施設等における介護の質向 上、地域資源の連携体制構築の推進等に必 要な能力を身につけ、地域全体の介護サー ビスの充実を図ることを目的に養成	① 5月30日～7月29日 (集合・オンライン) 受講者なし ② 8月29日～10月28日 (集合・オンライン) 受講者1名 ③ 11月28日～2月3日 (集合・オンライン) 受講者なし
認知症介護指導者 フォローアップ研 修		① 7月14日～10月14日 (オンライン型) 受講者なし ② 11月14日～11月18日 (集合型) 受講者なし

②神戸市認知症研修(市民対象研修)

ア. 認知症サポーター養成講座 (179回・5,279人)

認知症に関する正しい理解を深め、認知症の人とその家族を支援する協力者を育成するため、市民や企業等を対象とした神戸市認知症研修の相談受付、講師調整等を行った。また、市内の各区で研修を開催した。(259人受講)

③キャラバン・メイト養成研修

認知症サポーター養成講座の講師(キャラバン・メイト)の養成や、スキルアップ研修の実施、連絡会開催等により、研修内容の充実に努めた。

研修名	開催日程・受講者数	受講者数
キャラバン・メイト養成研修	9月21日	22人
認知症サポーター養成講座実施説明会	12月13日	11人

④若年性認知症研修

ア. 神戸市若年性認知症デイサービス・デイケア職員研修

デイサービスやデイケア等の職員の方に、若年性認知症の方へ支援するために必要な情報を提供し、若年性認知症の方の居場所拡大を目的にした研修。

対象者 市内デイサービス・デイケア、地域密着型サービス事業所職員、えがおの窓口職員

実施日 令和4年11月25日

参加者 70名

イ. 神戸市若年性認知症支援者研修

市内支援者が若年性認知症の正しい理解をもち、若年性認知症の人が直面する様々な課題を考え、どう支援に結びつけていくのかを考える機会として開催した。

対象者 市職員、あんしんすこやかセンター職員、えがおの窓口職員

地域での活動をする市民、認知症本人と家族の方、社会福祉協議会職員

実施日 令和5年1月18日

参加者 75人

情報発信の充実

(1) ホームページの機能拡充・強化

行事、イベントなど本会事業の最新情報を発信した。(ページ閲覧回数 444,565件/年)市内の「with コロナ」に対応した活動事例を紹介し、“新しい地域福祉活動のカタチ”を広げる試みとして、ホームページ上に「Re³(れれれ)大作戦」と称したコーナーを設け、コロナ下における活動アイデアの共有に取り組んだ。

市民福祉大学では、ヒューマンサービスコースにおいて、ブログを活用して講座の特色、内容や受講生の感想を発信することにより、広く市民の受講を促した。

総合児童センターでは、リニューアルオープンにあわせて、ホームページを刷新し、利用者が知りたい情報にたどり着きやすく、回遊しやすい構造とした。

(2) ソーシャルネットワークサービス (SNS) を活用した情報発信

Facebook や YouTube を活用した本会事業や地域活動情報の発信を行った。
また、YouTube においては内外に向けたオンライン研修や説明等にも活用した。

【Facebook 年間利用状況】 記事投稿件数 62 件、記事閲覧回数 13,594 回

【YouTube 年間利用状況】 動画投稿件数 33 件、動画視聴回数累計 8,300 回

※限定公開分含む

(3) 情報紙「きずな・KOBE」の発行

市民に親しまれる福祉の情報紙として、「きずな・KOBE」を発行した。多くの市民の目に触れるよう金融機関や病院等へ配布し福祉啓発に努めた。

年 1 回（令和 5 年 3 月発行、計 15,000 部）

(4) 機関紙の発行

- ・「神戸市ファミリー・サポート・センター通信」（1 回）
- ・「福祉ライブラリーニュース」（3 回、18,500 部）
- ・「児童館だより」（月 1 回、各児童館で発行）
- ・「拠点児童館ニュース」（2 回、各 5,000 部）
- ・「学童保育だより」（各児童館、各学童保育コーナーで随時発行）
- ・各在宅福祉センターで発行する機関紙「すずらんだより」「サルビアだより」「まのしんようネット」「こすもんレター」「なでしこホッと 通信」「スマイルなでしこ」
- ・「神戸市障害者スポーツ振興センターだより」（2 回、各 1,500 部）
- ・「点字図書館だより」（6 回、各 墨字版 273 部、点字版 186 部、デイジー版 137 部）

(5) 各種の行事・講座の案内、パンフレット等の発行

- ・「こべっこランド講座・イベント案内」（7 回 23 万部）
- ・各所属が開催した各講座案内等

ミッション2 くらしに寄り添う

地域福祉ネットワーク事業・生活困窮者支援

(1) 地域福祉ネットワーク事業の推進

①「地域生活課題への対応と地域での支え合いのしくみづくり」

区社協に配置している地域福祉ネットワークカーが、くらし支援窓口と連携しながら、様々な生活課題の解決・支援に向けて、地域住民組織と関係機関のネットワークを構築しながら、地域での支え合いのしくみづくりを進めた。

(生活課題への支援回数：10,832回 前年度比：1,320回増)

(支援世帯数：2,574世帯 前年度比：398世帯増)

②「地域福祉ネットワーク事業」における区社協支援の推進

地域福祉ネットワーク事業に関わる職員が相互に連携し、情報を共有するための「地域福祉ネットワーク事業担当者連絡会」を開催した。市・区社協の連携と役割分担のもと、より効果的に事業を展開した。

本会善意銀行の活用により緊急的な食糧の購入・備蓄を行い、区社協からの要請に応じて食糧提供を行う「食のセーフティネット事業」を実施した。(支援回数：23回)

そのほか、生活に困窮する方や留学生、大学生、シングルマザー等に対し、セブンイレブン・ジャパン及びその他企業、団体から寄贈された食料品や生活必需品を活用して支援を行った。

③地域福祉ネットワーク事業「未来会議」の開催

地域福祉ネットワーク事業が10年間で取り組んだ困難な事例を通して、参加者と地域課題を社会化し、次の時代の取り組み方針を導き出すことを目的に地域福祉ネットワーク事業「未来会議」を開催した。

④地域福祉ネットワーク事業分析・調査の実施

地域福祉ネットワーク事業の充実と体制強化を目的に、各区社協へ外部の学識経験者によるヒアリングを行い、客観的な事業分析・調査を実施した。

⑤身近な地域での「居場所」づくり

社会的な孤立を背景として、生活課題を抱える市民を支援することを目的に、各区で、地域とのつながりや役割を感じられる居場所や、就労に向けた体験の場づくりをすすめた。居場所の実際の進め方や効果等の情報共有を行い、区の特徴を活かした居場所を全市で行った。

区	事業名	開催場所	開催日時
東灘	カフェ・やすらぎ	メイプル1番館	第2・4火曜日
	お役立ち隊	ボランティアルーム	毎週水・金曜日
灘	やりがいづくり	灘区役所	毎週水曜日
中央	あおい製作所	神戸市勤労会館 会議室	第2・4曜日 (出張は随時開催)
兵庫	さんぽみちクラブ	ボランティアルーム	第3水曜日
	おどり場	区内事業所	不定期

区	事業名	開催場所	開催日時
北	ふらっとホーム	本区：ボランティアルーム	第1水曜日
		北神：ふれあいの里おくちよ	第3水曜日
	ふらっとホーム 「作業プログラム」	本区：ボランティアルーム 北神：北神区役所 会議室	それぞれ月2回
	ふらっとカフェ	ボランティアルーム	不定期
長田	ぺだる	ボランティアルーム	毎週金曜日
須磨	コスモスのたね	地域活動支援コーナー	第2木曜日
垂水	ひきこもりの方の家族の居場所	カフェ「iiyo」	不定期
	いかなご倶楽部	垂水区役所	不定期
西	やりがい・生きがいづくり	ボランティアルーム	不定期

⑥ “コロナ禍”の影響を受けた人々を支援する特別緊急支援事業

特別緊急支援として助成した財源を活用した事業を実施し、コロナ禍の影響を受けた個人や地域活動の支援に取り組んだ。

ア. 就活応援プロジェクト

新型コロナウイルス感染症に伴い、離職を余儀なくされ、再就職や転職を目指す生活困窮者や、母子・父子世帯等に相談窓口を通じて、就職活動に必要な衣類（スーツやカバン等）の貸し出しを実施主体のNPO法人と行った。

【協働団体】 2団体

イ. 地域の居場所応援モデル事業 キッチンカーの運営協力

休止中のこどもの居場所や高齢者の居場所の再開、新規立上げ、活性化を目的に、寄付いただいた食材と寄付金を活用し、キッチンカーによる温かい食事の提供を行った。

【実績数】 こどもの居場所 2台、高齢者ふれあい給食会 7台

ウ. こうべオレンジカフェ（認知症カフェ）活動応援事業

新型コロナウイルス感染症の影響を受けた「こうべオレンジカフェ」登録団体へ、活動再開と活動継続支援を目的に活動助成を行い、認知症の人とその家族を支える地域づくりを推進した。

【助成団体数】 7件

(2) 生活困窮者の自立・社会的孤立への対応

社会的な孤立を背景とする生活困窮者の自立に向けた生活支援を推進するために、区社協と各区役所に設置されている「暮らし支援窓口」とが連携し、関係機関や地域住民等とのネットワークによる支援体制を構築し、生活課題の把握や解決に取り組んだ。

(3) 生活福祉資金貸付

生活に不安を抱えた低所得、障害者及び高齢者世帯の方々に、資金の貸付と合わせて必要な相談支援を行う「生活福祉資金」について、実施主体である兵庫県社会福祉協議会との連絡調整を行い、申請窓口となる区社協の支援を行った。相談対応を行う区社協では、生活課題解決に向け、地域福祉ネットワーク事業をはじめとする区社協事業との複合的な支援や区に設置されている暮らし支援窓口との連携した支援を行った。

また、新型コロナウイルスの影響を受け減収となった方を対象とした「新型コロナウイルス特例貸付」の申請受付（令和2年3月25日～令和4年9月30日）及び、令和5年1月から開始となる償還（返済）に関し、返済が困難な借受世帯に対し、償還免除申請手続きの支援を各区社協で行った。

増加・複雑化する生活福祉資金の相談対応を支援するため、市社協では区社協の資金担当者会議を開催し情報共有や課題の吸い上げを行い、必要に応じ兵庫県社会福祉協議会に対し要望調整を行った。

貸付種別	相談件数	貸付決定件数	貸付額
教育支援資金	12,756 件	598 件	399,974,200 円
福祉資金	8,888 件	37 件	6,374,000 円
緊急小口		43 件	3,258,000 円
緊急小口資金 （新型コロナウイルス特例貸付）	9,204 件 ※償還相談含む	1,067 件	204,340,000 円
総合支援資金	2,508 件	1 件	600,000 円
総合支援資金 （新型コロナウイルス特例貸付）	1,827 件	983 件	51,791,000 円

(4) ひとり親家庭高等職業訓練促進資金貸付事業

経済的に厳しい状態にあるひとり親家庭の自立促進を支援することを目的に、神戸市からひとり親家庭高等職業訓練促進給付金を受ける世帯を対象として、看護師や介護福祉士などの資格を取得するための養成機関に入学する際の準備金（上限 50 万円）及び取得した資格を活かして就職する際の準備金（上限 20 万円）の貸し付け（5 年間の就労により償還が免除）を行った。

貸付種別	申込件数	貸付実施件数	貸付額
入学準備金	9 件	10 件	4,940,000 円
就職準備金	16 件	17 件	3,400,000 円
計	25 件	27 件	8,340,000 円

（比較 令和3年度実績）

貸付種別	申込件数	貸付実施件数	貸付額
入学準備金	7 件	6 件	3,000,000 円
就職準備金	18 件	27 件	5,400,000 円
計	25 件	33 件	8,400,000 円

児童就学・次世代育成支援

(1) 児童福祉基金を活用した児童就学支援

①唐川修学助成金による施設入所児童への高校修学助成

児童養護施設、母子生活支援施設に入所中の児童に対し、高校に進学する際の入学一時金等の助成を行った。

令和4年度	20件 2,420,000円	令和3年度	16件 1,670,000円
-------	----------------	-------	----------------

②民間社会福祉団体への事業助成

市域を対象とする児童健全育成事業に対し、助成を行った。

令和4年度	11件 930,000円	令和3年度	7件 560,000円
-------	--------------	-------	-------------

③生駒大学入学一時金給付事業

児童福祉施設、母子生活支援施設に在籍中の児童、または里親家庭に委託されている児童に対し、大学に進学する際の入学一時金として1名につき30万円を給付した。

令和4年度	9件 2,700,000円	令和3年度	13件 3,900,000円
-------	---------------	-------	----------------

④「生駒温子」児童福祉事業助成

次世代を担う児童の健全育成とすべての児童が幸福に成長できる環境づくりを推進するために、民間福祉団体が実施する事業・活動への助成を行った。そのうち公募助成では、こどもと大人の交流事業や子育て支援事業などの事業に対して助成した。

令和4年度	12件 2,260,000円	令和3年度	12件 2,310,000円
-------	----------------	-------	----------------

経済的な理由により修学困難な私立高校に在籍する生徒の支援を目的に神戸新聞厚生事業団が実施する「ひまわり奨学金」事業に対して助成した。

令和4年度	2,400,000円	令和3年度	2,400,000円
-------	------------	-------	------------

⑤かごめ奨学金助成

児童養護施設から自立した大学生の大学院進学を援助することにより、大学院生が学業に専念できるよう奨学金を給付した。

令和4年度	1件 490,000円	—	—
-------	-------------	---	---

⑥SOCIO-ROOTS 事業助成

三菱電機 SOCIO-ROOTS 基金からの寄付を活用し、発達が気になる子ども達を対象に家族や地域への支援を含めた発達支援を行う事業所において、支援者の人材育成・啓発活動を目的とした研修に対して助成を行った。

令和4年度	1件 60,000円	令和3年度	1件 500,000円
-------	------------	-------	-------------

(2) 善意銀行を活用した児童就学支援

児童養護施設、母子生活支援施設に入所中の児童に対し、専修学校等に進学する際の入学一時金等の助成を行った。

令和4年度	6件 1,800,000円	令和3年度	7件 2,100,000円
-------	---------------	-------	---------------

(3) 次世代育成・障害者社会参加支援事業助成

児童福祉基金、障害者福祉基金を活用して、次世代育成支援及び障がい者の社会参加支援を目的としてバスを利用した事業に対して、バスの利用料金の一部を助成した。

【事業実績】 施設・団体 148台 助成金額 2,915,780円

権利擁護に関する取り組み

(1) 安心サポートセンター

①権利擁護全般に関する相談

認知症等高齢者や知的・精神障がい者などの判断能力が十分でない方が、生活の中で受ける権利侵害や財産管理に関する不安や困り事などについて、精神保健福祉士や社会福祉士などの専門相談員が相談に応じた。

		令和4年度	令和3年度
電話・面談等相談		1,303件	1,290件
内 訳	認知症高齢者	394件	358件
	知的障がい者	86件	93件
	精神障がい者	637件	618件
	その他	186件	221件
権利擁護法律相談		27件	26件

②障がい者あんしんネットワーク事業

精神障がい者の人権や権利を擁護するため、市内の社会復帰施設や障害福祉サービス事業所、精神科病院の入・通所者等を対象に、日常生活上の悩みや疾病や障がい、施設等での生活上の問題などについて相談に応じた。

	令和4年度	令和3年度
相談件数(※)	203件	286件

※相談件数は、権利擁護全般に関する相談1,303件に含まれており、再掲。

③日常生活自立支援事業(福祉サービス利用援助事業)

判断能力が十分でないなどの理由により日常生活に支障のある認知症等高齢者や知的・精神障がい者を対象に、①福祉サービスの利用に関する情報提供や利用支援、②生活に必要な預貯金の払出・預入及び日常の金銭管理、③預貯金通帳や有価証券等の貸金庫での預かり等の支援を実施し、定期的な訪問による見守りを実施した。また、相談機能を強化するため、初回相談後のアフターフォローや契約前支援としてアウトリーチを行うなど、利用につなげるための支援の充実を図った。

ア. 相談・調査・契約状況

【相談・調査の状況】

	令和4年度	令和3年度
相談受付件数(※)	741件	618件
調査申込件数	224件	186件

※相談件数は、権利擁護全般に関する相談1,303件に含まれており、再掲。

【契約の状況】

		令和4年度	令和3年度
当該年度末契約件数		574件	570件
(うち当該年度新規契約件数)		125件	95件
内 訳	認知症高齢者	269件	288件
	知的障がい者	112件	107件
	精神障がい者	169件	151件
	その他	24件	24件
当該年度解約件数		121件	114件
当該年度末契約累積件数		2,590件	2,465件

イ. 成年後見制度への移行促進

加齢や病状の進行等により成年後見制度の利用を必要とする利用者が、日常生活自立支援事業から成年後見制度へ適切に移行できるよう、成年後見移行促進員を1名（週1回）配置し、成年後見支援センターや関係機関・団体等と連携しながら、適切な制度移行を進めた。

【成年後見移行促進員活動実績】

	令和4年度	令和3年度
相談件数	212件(32ケース)	130件(17ケース)
後見移行	15件	6件

ウ. 広報強化の取り組み

日常生活自立支援事業の利用促進を図るため、支援機関や地域団体等の支援者を対象に個別相談会付き出張説明会を実施した。また、新たに支援者向け相談の手引きを作成し、関係機関約670か所に配布して制度周知を図り、地域の潜在的なニーズの掘り起こしを行った。

出張説明会 17件（うち、個別相談会実施5件）

④市・区社協職員向け権利擁護研修会

社協職員が備えておくべき権利擁護に関する知識や考え方を学ぶ研修会を開催した。

実施日：令和5年1月27日（金） 参加者：15名

テーマ：「地域福祉からみる権利擁護研修～住民の生活を護ること～（基礎編）」

講師：神戸女子大学健康福祉学部 教授 植戸 貴子氏

⑤福祉施設向け財産管理監査サービス事業

入所者財産を管理している高齢者福祉施設を対象に、施設入所者が安心して財産管理を託し、施設にとっても社会的信頼を確保することができるよう、①財産管理に関する相談、②公認会計士による監査サービスを実施した。

本事業の利用施設は平成22年度の16施設をピークに年々減少しており、本事業の必要性について改めて見直しを行うため、利用法人への聞き取りを行った。その結果、各法人の会計監査人等による監査が可能であるため、令和5年度末をもって事業を終了する予定。

	令和4年度	令和3年度
当該年度利用件数	6件	7件

⑥高齢者くらしの充実資金貸付事業（リバースモーゲージ）

自宅に住み続けながら、その住まいを不動産担保として生活資金融資を受けた高齢者世帯（1件）を対象に、利子貸付を行った。

※平成9年12月から開始した「被災高齢者向け終身生活資金貸付事業」を平成13年から対象を拡大して「高齢者くらしの充実資金貸付事業」として実施。同様の事業を民間金融機関等が行うようになったため平成21年度末で新規契約の受付を終了。

⑦こうべ安心サポート委員会等の開催

認知症高齢者、知的・精神障がい者など判断能力の十分でない方の権利を尊重し擁護するとともに、特に専門的な助言を要する場合に対応を協議するなど、これらの人々の立場に立った支援を行うことを目的として設置した「こうべ安心サポート委員会」等を開催した。

ア. こうべ安心サポート委員会（1回）

議題：専門部会の活動報告、成年後見支援センターの活動状況、
安心サポートセンターの活動状況等

イ. 安心生活支援部会・成年後見判定部会（12回）

議題：成年後見の市長申し立てに対する助言 66件

ウ. 権利擁護事業部会

・事業運用審査委員会（6回）

議題：日常生活自立支援事業に関する審議6件、助言8件

・監査委員会（1回）

議題：日常生活自立支援事業・法人後見事業の利用者の財産管理監査

エ. 市民後見部会（7回）

議題：成年後見支援センターの運営、市民後見人養成研修、市民後見活動等に
関する助言

オ. 神戸シルバー法律研究会事務局事業

高齢者・障がい者等の権利擁護に関する調査・研究及び成果の発表を行うこと
を目的とした「神戸シルバー法律研究会」の事務局事業を実施した。

会 員：弁護士、医師、福祉関係者、行政関係者等 32人（令和4年度末）

活動実績：月例会 10回、運営委員会 2回、

シンポジウム 1回

「成年後見だけじゃない！～くらしとお金を守る色々な方法～」

開催日：令和5年2月18日（土）

参加者：196名（会場75名・オンライン121名）

(2) 神戸市成年後見支援センターの運営

成年後見制度に関する相談や申立書類の書き方、手続に関する説明や助言など申立支援等に関する相談援助を行った。また、後見をめぐる親族間のトラブルを抱える事例、複雑な権利関係の整理を要する事例、法的対応を要する事例など、専門的知識を要するケースについては弁護士、司法書士、社会福祉士の専門職が相談に応じた（2職種1組でそれぞれ月2回）。

		令和4年度	令和3年度
電話・面談等相談		1,423件	1,287件
相談 内容	成年後見制度（全般）	740件	581件
	任意後見制度	152件	127件
	申立方法について	151件	261件
	申立支援の依頼	26件	10件
	権利侵害等の相談	12件	18件
	後見人（親族等）の困りごと	18件	18件
	制度に対する苦情・困りごと	36件	43件
センター業務について		288件	229件
成年後見専門相談（再掲）		62件	55件

①神戸市市民後見人の選任と活動の監督支援

第三者後見の新たな担い手として、判断能力が十分でない人の生活を一般市民が社会貢献という立場で支援する市民後見人の第8期養成研修を開催した(新規登録者6名)。また、市民後見人候補者を対象に研修等を実施し、制度に関する知識の習得や市民後見人同士の交流を促進し資質向上に努めた(市民後見人候補者登録者88名)。

受任調整により神戸家庭裁判所へ市民後見人候補者を推薦し、後見活動開始後は監督支援を継続的に行うとともに、後見活動を終了した市民後見人候補者3名に対し、事務局長感謝状を贈呈した(受任調整会議6回、評価会議1回)。

(市民後見人の活動状況)

- ・市民後見人候補者の総選任件数(累計)102件(うち令和4年度中の選任件数10件)
- ・市民後見人の活動件数24件(うち本会の後見監督23件、専門職複数保佐1件)

市民後見人 に対する相談 対応件数	相談の内容(重複あり)				
	報告書 作成	財産管理 金銭管理	対象者の 理解と支援	終了・辞任 について	選任までの 支援
1,699件	192件	116件	113件	95件	89件
	医療	福祉・介護 サービス	所得・収入・ 債務	居住・地域 との連携	センター事業 等について
	61件	42件	18件	14件	1,098件

②市民後見人候補者による地域における相談機能・広報機能の充実の取り組み

ア. 成年後見制度の利用手続き相談室

各区社協の運営協力を得て、市民に身近な区役所で成年後見制度の相談に応じる「成年後見制度の利用手続き相談室」を全区で開催し、市民後見人候補者を相談員として派遣した(相談員49名/年間相談件数123件/開設日142日)。

また、高齢化率が高く区役所へのアクセスが不便な西区岩岡地区を対象に、より身近な場所で成年後見制度の利用相談が受けられるよう、西区社会福祉協議会の協力のもと岩岡相談室を開催した(9月・11月・1月・3月/相談件数7件)。

イ. 市民後見人候補者による広報啓発活動検討会

新型コロナウイルス感染症感染拡大による地域からの講義依頼の減少をふまえ、市民後見人候補者と成年後見制度利用促進に向けた新たな広報啓発のあり方を検討し、オリジナル啓発動画を制作し、公開した(参加者31名)。

③神戸市と金融機関との権利擁護に関する連携協定にかかる事業の推進

④法人後見事業(法定後見・任意後見)

ア. 法定後見

判断能力が十分でなく他に適切な法定後見人が得られない人を対象に、財産管理や身上保護等を行うため、後見活動に取り組んだ。

成年後見支援センターで養成する市民後見人が成年後見人等に選ばれる際には、市民後見人の後見活動の助言や指導を行うために、家庭裁判所から後見監督人の受任要請を受け、後見監督人に就任し市民後見人の活動を支援した。

イ. 任意後見

概ね60歳以上の高齢者、知的・精神障がい者で契約にあたり意思能力の確認ができる人を対象に、将来自分で判断できなくなったときに備え、本人と本会との間で任意後見契約を締結し、①定期訪問の実施、②判断能力が十分でなくなっ

た場合は任意後見監督人選任の申立て、③任意後見人として財産管理や生活に必要な事務全般の代行を行った。なお、事業開始当初と比べ任意後見に取り組む専門職等が多くなっており、本会では新規の契約は締結していない。

	法定				任意		合計
	後見	保佐	補助	後見監督	後見	契約	
令和4年度	7	2	0	23	1	0	33
令和3年度	4	3	0	23	0	1	31

⑥ 広報・啓発

ア. 成年後見セミナーの開催

実施日：令和5年3月18日（土）

内 容：「地域における成年後見人の役割とは？～チーム支援の現場から～」

参加者：206名（会場87名、オンライン119名）

イ. 区社協とのコラボセミナー等の開催

各区社協と連携して、区の特色やニーズに沿ったセミナー等を開催した。

（東灘・北・長田・須磨・垂水・西区と延べ7回開催）

ウ. 市民後見人活動の啓発動画の制作

市民後見人活動の啓発のため、実際に活動している市民後見人へのインタビュー動画を制作し、公開した。

エ. 出張説明会への講師派遣

行政や高齢・障害分野の関係機関、福祉関係団体等から講義依頼を受け、講師を派遣した。（延べ25件、うち出前トークは3件）

オ. ホームページの運営およびパンフレットの配布

成年後見制度の利用が必要な人が適切に相談に繋がるようホームページへの情報掲載したほか、パンフレットを配布した。（パンフレット配布9,254部）

介護保険サービス等の提供

(1) デイサービス事業【介護保険事業】

長田において、通所介護を実施した。初期・若年性認知症特化型通所介護（毎週木曜日）については新型コロナウイルス感染拡大防止のため休止した。

西では、認知症の方を対象にした「認知症対応型通所介護事業」を実施した。

①通所介護事業（デイサービス）の利用状況

	実利用者数(人)	延べ利用者数(人)	実施日数(日)	1日当り利用者(人)	定員(人)
一般（長田）	119	7,710	308	25.0	40
初期・若年性認知症特化型（長田）	0	0	0	0	10
認知症対応型（西）	30	2,193	255	8.6	12

②通所介護事業におけるボランティア登録・活動者数 (人)

	長田	西	合計	前年度
登録者数（実活動者数）	22	15	37	30
延べ活動者数	839	122	961	963

(2) 居宅介護支援（えがおの窓口）事業【介護保険事業】

要介護者の自立支援を図るため「居宅介護支援事業（えがおの窓口）」を実施し、介護サービス計画（ケアプラン）の作成等を実施した。(件)

	北	長田	須磨	西	合計	前年度
ケアプラン作成	2,503	2,141	1,446	1,749	7,839	7,945
要介護・要支援認定調査	675	540	371	400	1,986	2,004

(3) 認知症カフェ（オレンジカフェ）の実施【介護保険事業外】

- ・こうべオレンジカフェに登録し、認知症カフェを長田は毎月、西は隔月で実施の予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため令和4年度は中止とした。

【さるび屋】（長田在宅福祉センター）

【なでしこ茶屋】（西在宅福祉センター）

- ・西在宅福祉センターでは、デイサービスの利用に繋がっていない地域の認知症高齢者を対象に、認知症対応型デイサービスで実施するプログラムを体験する機会を提供するとともに、ご家族が認知症や介護について職員や認知症サポーター等ボランティアスタッフと話し合える交流事業として、月1回なでしこカフェを開催した。

(4) 地域包括支援センター（あんしんすこやかセンター）事業

公募により、高齢者の身近な総合相談窓口として事業を神戸市から受託し、地域の特性に応じた地域福祉活動を実施した。

(センター名称)

鈴蘭台あんしんすこやかセンター、真野真陽あんしんすこやかセンター

たかとりあんしんすこやかセンター、平野西神あんしんすこやかセンター
(実施事業)

介護予防マネジメント、包括的・継続的なケア体制の確立

総合相談支援・権利擁護支援

①相談受付実績

(件)

	鈴蘭台	真野真陽	たかとり	平野西神
介護相談	512	968	716	940
入所・退所相談	25	8	42	103
認知症に関する相談	102	151	144	160
実態把握	287	145	134	133
介護保険外サービス	33	12	46	68
基本チェックリスト	6	22	21	26
権利擁護	9	84	55	31
認定申請	622	471	376	338
困難事例対応	67	107	136	1
その他	77	68	100	15
合計	1,740	2,036	1,770	1,815
前年度	1,818	2,045	2,018	1,398

②ケアマネジメント相談対応実績

(件)

	鈴蘭台	真野真陽	たかとり	平野西神
介護予防支援・介護予防ケアマネジメント	613	179	201	360
包括的・継続的ケアマネジメント	155	131	150	116
合計	768	310	351	476
前年度	356	844	348	308

③介護リフレッシュ教室・地域ケア会議等

(開催回数)

	鈴蘭台	真野真陽	たかとり	平野西神
介護リフレッシュ教室	6	5	4	6
地域ケア会議	2	2	2	1
地域主催の会議等	45	21	48	51
ケアマネ研修会	3	8	1	4

④介護予防支援事業【介護保険事業】

要支援者の自立支援及び介護予防を図るため「介護予防支援事業」を実施し、介護予防ケアマネジメントを実施した。

(件)

	鈴蘭台	真野真陽	たかとり	平野西神
給付管理総数	4,889	5,837	3,802	3,504
内作成件数	3,193	3,799	2,837	2,742

内委託件数	1,696	2,038	965	762
受託件数	28	0	0	28
合計(給付管理・受託作成件数)	4,917	5,837	3,802	3,532
前年度	4,959	5,666	3,558	3,466

⑤地域における支えあい活動の推進と地域包括ケアシステムの構築

要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい人生を最後まで続けることができるように関係機関と連携し、地域での支え合い活動の推進と地域包括ケアシステムの構築を目指して、次の取り組みを行った。

ア. 鈴蘭台あんしんすこやかセンター

<p>ア) 神戸親和大学内でのふれあい喫茶の開催 (9回・116人)</p> <p>対 象：地域の高齢者</p> <p>内 容：感染拡大防止対策を取りながら9回開催。「健康づくり教室」、地域住民が講師役の「手芸教室」、「フラダンスチーム」による楽しいフラダンスなどを開催。親和大学生の企画により、地域の高齢者同士また学生と高齢者の異世代交流が深まる機会となった。コロナ禍で外出を控えておられた方が参加され、久しぶりに楽しい時間を過ごすことができたと喜んでいただけた。</p>
<p>イ) 地域ケア会議の開催 (1回・参加者数 37人)</p> <p>R5.2.14 (火) 「オレンジ110番を知ろう!! 広めよう!!」</p> <p>参加者：民生委員・児童委員、居宅介護支援事業所、サービス事業所、薬剤師、警察、認知症家族介護者、北区役所、郵便局</p> <p>内 容：今までの地域ケア会議で話し合われてきた「オレンジ110番」の成り立ちを振り返り、実際に稼働できる「オレンジ110番」設置の検討。</p> <p>成 果：協力事業所と「オレンジ110番」について必要性や認識合わせができた。また、より良い活動にするためのアイデアを共有し、令和5年4月から活動開始となった。</p>
<p>ウ) 個別ケア会議の開催 (1回・参加者数 26人)</p> <p>R4.11.26 (土) 「高齢の方の在宅生活を支えるために」</p> <p>参加者：民生委員・児童委員、居宅介護支援事業所、サービス事業所、自治会、婦人会、北区役所、北区社会福祉協議会</p> <p>内 容：玄関先でごみを燃やす独居高齢者の事例をもとに、個人でできる事、地域でできることについて話し合う。</p> <p>成 果：地域の中の絆を活かした見守りや支え合いが地域の中で気になる方を支えるのに大切であることが確認できた。また、その方を次につなげることも必要であると理解する機会となった。</p>
<p>エ) 認知症等高齢者声掛け訓練 オ) 認知症サポーター養成講座</p> <p>R4, 7, 11(月) 「認知症サポーター養成講座」と「認知症等高齢者声掛け訓練」開催 (五葉あんしんすこやかセンターと共催)</p> <p>参加者：(42名) 民生委員・児童委員、友愛訪問ボランティア、自治会、郵便局、警察、薬局、グループホーム、コープ、区、北区社会福祉協議会</p> <p>内 容：認知症サポーター養成講座 (講師：医療介護サポートセンター)</p>

<p>認知症等高齢者声掛け訓練 (5～6 人のグループに分かれ、6 グループがそれぞれ拠点におられる認知症役の方に声を掛け、オレンジ 110 番にお連れする訓練)</p> <p>成 果：認知症について理解を深め、声掛け訓練を実際に体験することにより、地域の支援体制に繋がるきっかけづくりができた。</p>
<p>わ) 地域の介護施設内でのふれあい喫茶の開催</p> <p>なごみ (鈴蘭台自治会館)</p> <p>ボランティアの高齢化により 3 年近く活動休止状態で、再開のめどがたっていなかったが、コロナ終息後に再開の話合いができた。</p> <p>カトレアカフェ (介護老人福祉施設カトレア鈴蘭台)</p> <p>令和 3 年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため施設内への立ち入りができず喫茶は開催できなかった。喫茶再開もしくは地域のために何かできないか模索していくという話あいができ、実行可能な形を検討中。</p> <p>レガートクラブ (既存の喫茶店の一部を借りて実施)</p> <p>毎月 1 回、感染予防対策をとり開催することができた。必要に応じてボランティアの後方支援を行った。</p>
<p>か) 出張相談窓口の開設</p> <p>住民が相談しやすい身近な場所で相談窓口を開設予定だったが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、ふれあい給食会やふれあい喫茶が活動休止となり、出張相談が開催できなかった。</p>
<p>き) フレイル予防</p> <p>OK クラブ (小部東こけないクラブ) 小部東地域福祉センター</p> <ul style="list-style-type: none"> ・神戸市・ポピュレーションアプローチ「チャレンジ！K O B E 健幸プログラム・シリーズ 3 回」(30 名参加) ・北区民へ普及目的の健康体操を考案した神戸親和大学・講師による「きたきた体操」＝フレイル予防体操の実施 (地域住民・親和大学生：25 名参加) <p>きたきた体操 (フレイル予防) 小部地域福祉センター</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北区民へ普及目的の健康体操を考案した神戸親和大学・講師による「きたきた体操」＝フレイル予防体操の実施 (地域住民・親和大学生住民 17 名参加) <p>ふれあい喫茶 (神戸親和大学内)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・神戸市・ポピュレーションアプローチ「チャレンジ！K O B E 健幸プログラム～みんなで体操・健康『貯蓄』！～」プログラム (16 名参加) <p>フレイル予防のつどい (コープ店舗内集会室)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマに沿ったフレイル予防講話・実習の開催 (体操・落語・低栄養・お口の健康) ・年間 5 回開催 (合計：108 名参加) <p>鈴蘭台第 2 市住集会所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・神戸市・ポピュレーションアプローチ「チャレンジ！K O B E 健幸プログラム～みんなで体操・健康『貯蓄』！～」プログラム (10 名参加) <p>レガート喫茶</p> <ul style="list-style-type: none"> ・神戸市介護保険課とリハボーイズによるフレイル予防講義開催。(9 名参加)

<ul style="list-style-type: none"> ・管理栄養士によるフレイル（栄養）に特化した講義の開催（10名参加） <p>鈴蘭台地域福祉センター</p> <ul style="list-style-type: none"> ・神戸市介護保険課とリハボーイズによるフレイル予防講義開催。（25名参加）
<p>ク)ベルスト鈴蘭台（駅ビル中央コンコース）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出張相談会の開催（毎月第3金曜日） ・開催回数 12回 相談人数 延べ13名 ・相談ではなく、あんしんすこやかセンターの役割を聞きたいというニーズも多い。
<p>ケ)広報啓発（フレイル予防のチラシ配布）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ベルスト鈴蘭台（駅ビル）内ラックに配架（年6回 総数800部） ・駅前金融機関ATM前でチラシ配布（年金支給日に消費者被害啓発活動に合わせて啓発を行った。（年6回 総数600部） ・地域の防災訓練、地域ケア会議、事業者連絡会、民生委員連絡会、個人など様々な機会での広報を行うことができた。

イ. 真野真陽あんしんすこやかセンター

<p>ア)地域ケア会議の開催（1回・参加者数38名）</p> <p>テーマ：認知症の人を支えるまちづくりを目指して自分たちに何ができるか考える。</p> <p>参加者：三師会等医療関係、警察、ふれあいのまちづくり協議会、民生委員・児童委員、長田区社会福祉協議会、看護師、えがおの窓口、サービス事業者、長田区保健福祉部等</p> <p>内 容：長田警察より長田区の行方不明、迷子、保護の報告。</p> <p>地域の状況報告（センター圏域と真陽地区の高齢化率や認知症に関する相談報告）。</p> <p>「まちなかで困っている人を見かけたらどうしますか。」と「認知症の人を支えるために自分だったらどんなことができそうですか？」について意見交換。</p> <p>地域での今後の予定：認知症サポーター養成講座を3回開催（地域2回、小学校1回）、声かけ訓練の開催。</p> <p>認知症関連情報提供（認知症にやさしいまちづくり条例、認知症神戸モデル、神戸市安心登録制度など）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別ケース検討会議（1回・参加人数9名） <p>参加者：自治会、民生委員児童委員、ケアマネジャー、あんしんサポートセンター</p> <p>判断能力が低下した高齢者の自宅での生活を支えるために地域支援者とケアマネジャーとの経緯確認と具体的な支援方策の検討。これまでの経緯のすり合わせとあんしんサポートセンターの業務内容の紹介、今後の具体的な支援内容の確認（役割分担）ができた。</p>
<p>イ)認知症等高齢者声掛け訓練の実施</p> <p>平成30年、令和元年に2年続けて実施。令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のために中止。令和3年度44名の参加。今年度は小学校と地域とで合同開催し72名の参加があった。</p>
<p>ロ)認知症サポーター養成講座3回開催。地域2回、真陽小学校6年生の児童向け1回。合計参加者50名。</p>

<p>エ) 高齢者向け情報誌「まのしんようネット」の発行 (発行回数 4 回。延べ発行部数 11,500 部) 内 容：地域ケア会議の参加者で「まのしんようネットメンバー」を結成し、地域高齢者の消費者被害等の情報や介護予防の情報などを発信した。</p>
<p>フ) 災害時要援護者避難訓練への協力 内 容：東南海地震に備え、地域団体が実施する避難訓練において、要援護者名簿の整理支援活動を行った。(避難訓練参加)</p>
<p>カ) 出張相談窓口の開設 内 容：住民が相談しやすい身近な場所で窓口を開設した。 <志里池相談室> 場 所：志里池地域福祉センター (23 回・相談件数 29 件) <真野介護相談室> 場 所：真野地域福祉センター (24 回・相談件数 5 件) <地域の行事> 真野バザー、真野ふれあい寒もちつきにて介護相談の実施。</p>
<p>キ) 予防介護教室「転ばん塾」再開の後方支援 主 催：民生委員・児童委員 参加者：地域住民 場 所：志里池地域福祉センター 6 月より再開。体操や脳トレーニングや消費者被害などの情報提供。 10 回開催。参加人数 283 名。</p>
<p>ク) 地域の居場所づくり「絵手紙の会」と「健康マーじゃん」開催 参加者：地域住民 場 所：真野地域福祉センター 高齢者自立支援拠点「おちゃのま」閉鎖に伴いおちゃのまで開催していた集いの場を地域福祉センターの場所を移して開催。12 回開催。118 名参加。</p>
<p>ケ) 地域行事での高齢者疑似体験の実施 新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。</p>
<p>コ) 福祉授業（総合学習）の実施（延べ 6 日間） 内 容：高齢者疑似体験やデイサービスについての理解を深め、利用者との交流会を実施した。今年度の交流会は新型コロナウイルス感染拡大防止のために少人数で開催した。児童に対して地域の支え合い活動について啓発につながった。 対 象：真陽小学校 4 年生 (56 人参加) (ウ) の通り真陽小学校 6 年生に認知症サポーター養成講座を行った。</p>
<p>ウ. たかとりあんしんすこやかセンター</p>
<p>ア) 地域ケア会議の開催 (2 回・参加者数 27 人) テーマ：高齢化率の高い地域に住む住民が、防災について学び、話し合うことで、自助・共助について理解し地域の防災意識を高める。 参加者：民生委員児童委員、地区防災福祉コミュニティ、三師会等医療関係者、小学校、中</p>

学校、校居宅介護支援事業所、障害者相談支援センター、居宅介護支援事業所、サービス事業所、警察、消防、須磨区役所まちづくり課、須磨区役所保健福祉課、須磨区社会福祉協議会

内 容：同じテーマで、7月と11月に同じ地区の民生委員児童委員協議会を担当するセンターと共催で開催。第1回目で防災について講師を招き基礎知識を学び、第2回目で「避難所で過ごす高齢者夫婦についての支援方法等」について、事例検討を交えて話し合いを持った。

1) ふれあい喫茶、給食会等の運営支援

・新型コロナウイルス感染症拡大が継続する中、開催の有無についての相談等を受けながら、ふれあい喫茶や給食会等の後方支援を行い、地域コミュニティの活性化を図った。

〈ふれあい喫茶〉 (22回 ・延べ人数 284人)

〈給食会〉 (11回 ・延べ人数 178人)

〈つどい場〉 (15回 ・延べ人数 174人)

・つどい場等に参加している高齢者に、センター広報、感染予防、消費者被害、防災、熱中症・食中毒予防等について広報啓発を行った。

また、フレイル予防についての体操やオーラルフレイルについて専門職を招き啓発を行った。

2) 認知症理解のための広報活動

・認知症高齢者声かけ練習会の実施

新型コロナウイルス感染症予防に配慮し、つどい場で12名を対象に開催した。

3) こども若者ケアラーの広報啓発

・学校応援団主催の近隣小学校のフェスティバルに参加し、こども若者ケアラーについて広報啓発を行った。

4) 高齢者向け広報紙「赤灯台」の発行 (発行回数4回・延べ発行部数4,160部)

・区内あんしんすこやかセンターの広報担当で、地域高齢者の消費者被害等の情報やフレイル予防の情報を発信した。

エ. 平野西神あんしんすこやかセンター

1) 地域ケア会議の開催 (1回・参加者数27名)

テーマ：「地域のつどいの場について」 みんなで考えよう！みんなで繋がろう！

参加者：西区民生委員・児童委員協議会会長、西区保健福祉課保健師、西区歯科医師会会長、サービス事業所看護師・理学療法士・作業療法士、調剤薬局薬剤師、障害者相談支援センター相談員、居宅介護支援事業所ケアマネジャー、神戸市社会福祉協議会、西区社会福祉協議会

内 容：住民主体の地域活動の一つである「いきいき百歳体操の活性化」をテーマに、つどいの場の現状、地域の繋がり、支え合いの大切さについて考え、地域住民、医療・介護・福祉の専門職が、それぞれの立場でできることを話し合った。結果、つどいの場サポートチームの立ち上げに繋がった。

2) 支えあう地域づくりの活動

①認知症サポーター養成講座を開催 (1回・参加者48名)

②認知症高齢者声かけ訓練を実施（1回・参加者20名） 内 容：樫野台ふれあいのまちづくり協議会の協力を得て、講座・訓練開催の広報を行い、地域住民対象に開催した。
り)認知症カフェ開催（偶数月：第4日曜）の後方支援は新型コロナウイルス感染拡大防止に配慮し休止中。
え)センター広報活動を実施 内 容：チームで地域活動の場に出向き、センター広報、フレイル予防啓発、地域の活動紹介（いきいき百歳体操等）を行い、顔の見える関係づくりに努めた。
わ)地域活動の後方支援を実施 内 容：圏域内の7か所で開催されているいきいき百歳体操の場に出向き、参加者にアンケートを実施した結果、体力測定の再開やモチベーションを維持するためにできることはないか等の課題やニーズを把握することができた。その結果をもとに地域住民、医療機関、区社会福祉協議会やリハビリ職、ケアマネジャーと共にいきいき百歳体操活性化について話し合いを重ね、サポートチーム立ち上げに繋がった。

⑥地域支え合い推進事業

地域のひとりぐらし高齢者等の見守り体制づくり (件)

	鈴蘭台	真野真陽	たかとり	平野西神
見守り相談実績	28	28	34	15
地域支え合い活動	22	36	9	31
小地域支え合い連絡会開催回数	13	22	33	6

⑦シルバーハウジング生活援助員派遣事業

生活相談・安否の確認・一時的な家事援助・緊急時の対応等の高齢者向公営住宅入居者の生活支援事業を実施した。

真野真陽	西尻池高層住宅 (戸数90戸)
生活相談 45件	シルバーハイツ東尻池 (戸数17戸)
安否確認 5,291件	真野ふれあい住宅 (戸数19戸)
緊急対応 167件	

認知症支援事業

(1) こうべオレンジカフェ登録事業

市内の認知症カフェの設置を推進し、市民への広報を行った。(登録数34件)

“コロナ禍”の影響を受けた人々を支援する特別緊急支援事業を財源としたこうべオレンジカフェ活動応援事業助成を立ち上げた。(申請数7件)

(2) 神戸市高齢者安心登録事業

認知症などで行方不明の心配がある高齢者の情報を事前に登録し、関係機関および兵庫県警とであらかじめ共有した。登録者が行方不明となった場合は早期発見・早期保護のため、地域の協力者に対し電子メールで捜索協力を呼びかけた(24時間365日対応)。

	登録者数	検索協力者数	メール配信依頼数
令和4年度	2,609人	723人	41件

(3) 若年性認知症の方への支援

既存の制度だけでは、生活ニーズの充足が困難な若年性認知症の方への支援を行うため、月1回本人同士、家族同士が安心して、自己実現や情報交換ができる居場所として交流の場「ソレイユ」を実施した。

開催日：毎月1回実施。4月16日、5月21日、6月18日、7月29日、8月27日、9月17日、10月28日、11月14日、12月16日、1月18日、2月18日、3月18日

会場：こうべ市民福祉交流センター・しあわせの村 等で実施

内容：ご本人・家族の自己実現、情報交換の場。レクリエーション、病気や制度についての勉強会、参加者の希望を聞きながら、プログラムを考える。

参加者：延べ115名

(4) 神戸市介護保険施設入所相談センターの運営

①事業内容

ア. ケアマネジャーからの依頼に基づき施設入所の緊急性が高い人の受け入れができる特別養護老人ホームを紹介

イ. 緊急性判定委員会において施設紹介の対象となるが、入所施設の空きがない場合、施設入所までの間利用できる特別養護老人ホームの緊急ショートステイの紹介

ウ. 施設入所等に関するケアマネジャーからの相談への適切な助言

②相談件数 29件

障害者地域生活支援拠点の運営

(1) 障害者相談支援センター

障がい者及び障がい児が住み慣れた地域で、障害福祉サービス等を利用して、その有する能力及び適性に応じて自立した日常生活又は社会生活が営むことができるよう支援するとともに、地域の障がい者等の福祉に関する各般の問題について、障がい者等、及びその介護を行う者からの相談に応じ、必要な情報の提供及び助言等を行った。

また、区域レベルでは、センターと自立支援協議会との共催による啓発講座やネットワークの構築、地域の事業所との意見交換、その他地域課題に合わせた個別支援会議等を行った。

①基本相談 (件)

相談内容	いそがみ	きた	しん ながた	たかとり	ひらの せいしん
福祉サービスの利用等に関する支援※	4,125	4,755	7,610	7,126	6,540
障害や症状の理解に関する支援	154	167	55	169	105
健康・医療に関する支援	806	1,038	905	901	772
不安の解消・情緒安定に関する支援	248	668	304	346	719
保育・教育に関する支援	41	57	35	26	52
家族関係・人間関係に関する支援	204	399	319	239	512
家計・経済に関する支援	70	128	109	30	122
生活技術に関する支援	116	454	274	128	307
就労に関する支援	139	74	61	29	95
社会参加・余暇活動に関する支援	2	15	20	1	112
権利擁護に関する支援	30	70	70	115	34
その他	976	2,805	3,213	3,549	1,368
合計	6,911	10,630	12,975	12,659	10,738

※福祉サービスの利用等に関する支援の中には、次の調査等を含む (件)

調査等内容	いそがみ	きた	しん ながた	たかとり	ひらの せいしん
障害支援区分認定調査	50	46	49	33	47
支給決定更新等に係る勘案事項調査	259	230	296	390	235

移動支援サービス利用に係る聴き取り等	16	7	16	3	15
--------------------	----	---	----	---	----

②指定特定相談支援事業者・指定障害児相談支援事業者としての相談契約件数 (件)

支援内容	いそがみ	きた	しん ながた	たかとり	ひらの せいしん
計画相談支援	19	30	21	50	36

③指定地域相談支援 (件)

支援内容	いそがみ	きた	しん ながた	たかとり	ひらの せいしん
地域移行	1	3	1	0	2
地域定着	0	1	0	0	0

④その他

- ・福祉啓発講演会の実施 (須磨区)

障がいの有無にかかわらず多様な個性が輝く地域共生社会の実現に向けて、地域住民や福祉従事者等への障害理解の推進のために、竹口 和香氏をお招きし、摂食障害の克服等についてお話し頂いた。

実施日:2022年10月15日(土)13:30~15:00

場所:須磨区役所2階 健康教育室

参加者:70名

(2) 見守り支援事業

障がい者等が地域で安心して自立した生活を継続できるよう、関係機関と互いに連携して、地域全体で障がい者等を見守る体制の整備を進めた。また、災害時の要援護者の支援体制を構築するための取り組みを始めた。(件)

内 容	中央区	北区	長田区	須磨区	西区
見守り総件数(延べ)	455	155	778	331	182
台帳(実人数)	101	61	224	70	21
台帳外(実人数)	27	8	9	40	0
暫定的見守り(実人数)	8	3	25	40	25
支援へとつないだ件数	10	4	4	1	9
ネットワーク構築のための会議等	3	9	10	4	3
緊急対応	0	1	0	0	0

(3) 地域生活支援拠点コーディネート事業

(件)

内 容	中央区	北区	長田区	須磨区	西区
緊急受入(短期入所)相談総数※	18	20	10	26	18
日中活動の場の提供	12	2	1	20	17
区内の短期入所施設及びグループホームの状況把握	5	2	0	0	0
災害時要援護者支援	2	0	1	1	0

※1 回の入所のために複数日・回に渡る調整を行った場合でも 1 とする。

(4) 地域支援機能強化事業

障がい者の地域移行の推進及び地域生活の継続支援を目的として、全市と各区の実情に合わせた取り組みを行った。また、令和 3 年度にコロナにより延期となっていたチャレンジ研修の実施、地域移行の課題解消に向けた入所施設・精神科病院へのヒアリング、体験型グループホーム事業の利用調整、神戸市精神障害者地域移行・地域定着推進事業が主催する会議への参加等を行った。

(5) 自立支援協議会事務局の運営

障がいの有無に関わらず誰もが住み慣れた地域で安心して生活が続けられるよう、各区内の福祉施設、教育、医療、行政等の関係機関とともに、障がい者の自立、社会参加、広報・啓発を目的に他法人と連携し「区自立支援協議会」の運営を行った。また、各区において蓄積した地域課題を、第 7 期神戸市障がい福祉計画の作成につながる課題として、神戸市地域自立協議会へ報告を行った。

(6) 生活介護・短期入所

北区、須磨区、西区で、生活介護と短期入所事業を行った。また、中央区は、障害者地域生活支援拠点の相談部門を担い、生活介護及び短期入所を担当する社会福祉法人神戸明輪会と共同で運営した。長田区についても相談部門を担い、生活介護及び短期入所は、既存施設である社会福祉法人みらいが運営する「みらいおもいけ園」と連携した。

①生活介護**ア. 利用状況**

介護を必要とする方に、昼間、入浴、排せつ食事の介護等を行うとともに、創作活動や生産活動（工賃として作業訓練費の支払い有）などの機会を提供することにより、地域での生活を支援した。

また、施設や保護者の元からの自立等にあたって、地域生活への移行をしやすくするための体験の場としての役割も果たした。

開設時間：9:00～16:00

定 員：20 人

休業日：土・日曜日 年未年始

(人)

	北区	須磨区	西区
利用登録者数 (令和 5 年 3 月 31 日現在)	28	52	48
延べ利用者	2,861	2,589	2,361

イ. 重点取り組み事項

(ア) 経営改善小委員会

開設より5年目を迎える西区障害者地域生活支援拠点において、安定した運営を検証するため、他法人施設経営者、コンサルティング業者等を委員に経営改善小委員会を2回開催し財務分析を行った。

(イ) 在宅福祉センター等経営改善委員会

学識経験者、障害福祉連盟長、当事者会の代表者を委員に在宅福祉センター等経営改善委員会を2回開催し、小委委員会からの財務報告ならびに現状の課題等の運営分析を行い、新たなスキームとして「多機能拠点プラス面的整備」を神戸市に提言した。

(ロ) 委員会の立ち上げ（感染症・虐待・BCP）

法令改正に基づく感染症対策委員会、虐待防止委員会の立ち上げ、ならびに各種マニュアル作成、研修を行った。また、自然災害発生時における業務継続計画を策定した。

(ハ) 共生型サービスの創出

65歳を迎える利用者や特定疾病による要介護認定を受けた40歳以上の利用者が、通いながれた事業所でサービスを継続利用できるよう、介護保険制度に基づく共生型通所介護事業所として指定を受け、高齢障がい者へのサービス提供を実施した。（西：3人、須磨：2人）

ウ. 各在宅重点取り組み

アート&ワーク活動等で個性を活かした表現活動を行い、アート作品や陶芸、商品づくりなどの制作活動を実施。また、展示会への出展を行うなど社会参加活動を実施し、複数の展示会で入選した。

(ア) 北区

- ・地域住民と連携を図り、清掃活動や鈴蘭台駅のイベントに出店するなど、様々な活動に参加。
- ・リズムダンス活動や音楽療法活動を行い、障がい特性に合わせた音楽活動の機会を持つことで心身の活性化や社会性の向上、プログラムの内容の充実を図った。

(イ) 須磨区

- ・地域の高等学校と連携し、介護福祉士実習を受け入れ生徒への広報啓発等を行い、連携を強化した。
- ・須磨在宅内の掃除を区内外の就労移行支援事業所とネットワークを形成し委託。ジョブコーチ無しでの訓練先として実施した。また、移行支援修了者を職員として雇用をした。
- ・海外より専門のスヌーズレン一式を導入し、感覚活動支援を実施した。

(ロ) 西区

- ・月1回、西区役所で「はっぴーにしNIKO SHOP」に出展し、社会参加を実施。
- ・相談部門との連携により、障害者のくらしに役立つ健康講座の実施や地域における障害理解を深めるための機会として、障害者交流事業「Smile★Café」を定期開催した。

②短期入所

障がい者の地域での生活を支えるため、短期入所を行った。

また、介護者の急な入院等で在宅生活が困難な障がい者を、緊急で受け入れた。

定員：5人（別に緊急利用床1床）

休業日：年中無休

(人)

	北区	須磨区	西区
利用登録者数	86	156	229
延べ利用者	1,623	2,094	2,403
緊急利用者数・利用日数	8人/48日	15人/66日	17人/60日

障がい者のスポーツ・文化の振興

(1) 広報・普及啓発

①「神戸市障害者スポーツ振興センターだより」の発行

事業の紹介や障害者スポーツに関する情報を掲載し、公的施設や関係団体等に配布した。(2回、各1,500部)

②ホームページによる情報提供

事業の紹介や神戸市の障害者スポーツに関する情報、神戸市障害者スポーツ振興センターだより、スポーツ用具貸出のご案内などの情報をホームページで提供したほか、各種大会やイベントへの参加申込をホームページ上でも受け付けた。

③障害者スポーツを紹介する啓発パネルなどの展示

障害者スポーツを紹介する写真・パネルを花時計ギャラリー、さんちか通路アドウィンドー、コムスタ神戸、こうべ市民福祉交流センター、しあわせの村(手のひらギャラリー)に展示した。

④出前教室「聞いて！見て！やってみて！」の実施

市内の小学校・中学校・高等学校からの依頼に基づいて職員を派遣し、障害者スポーツの楽しさと障がいを理解することの大切さを伝えた。

シッティングバレーボール3回、ボッチャ4回

⑤障害者スポーツ指導員の派遣による啓発

市内の小学校に当センターの障害者スポーツ指導員と車いすバスケットボールチーム、シッティングバレーボールチームを派遣し、児童が障害者スポーツを体験し、障がい者と交流する機会を提供した。(2回)

⑥地域展開事業「とんで！はずんで！たのしいスポーツ」の開催

障がい者が地域で身近にスポーツを楽しめるよう、地域の児童館や学校、施設に向き、年中～成人までの障がいのある方を対象に、リズム体操、トランポリン、サーキット運動などの軽運動プログラムを提供した。

期 間 令和4年10月1日(土)～令和5年3月18日(土)

場 所 こべっこランド、いぶき明生・青陽須磨・友生特別支援学校、魚崎・河原・有野・落合児童館、しあわせの村、市民福祉スポーツセンター

参加者 全16回、のべ135人

⑦地域行事等への支援・連携

区社会福祉協議会や、区まちづくり課と連携し、地域の行事等で障害者スポーツが体験できる機会を提供した。

【灘区社会福祉協議会】

行事名：第3回ボランティアフェスティバル

実施日：令和4年11月27日(日)

場 所：灘区文化センター

【西区まちづくり課】

行事名：西区40周年記念事業パラスポーツ体験会(ボッチャ、車いすバスケットボール)

実施日：令和4年12月11日(日)

場 所：神戸市立西体育館

【灘区まちづくり課】

行事名：ボッチャ体験会

実施日：令和5年1月29日(日)

場 所：王子スポーツセンター（体育館）

(2) 神戸市障害者スポーツリーダーの養成及び派遣

多くの市民に障害者スポーツに関わっていただくとともに、地域で障害者スポーツの活動を推進していくため、神戸市障害者スポーツリーダーを養成し、大会や教室へ派遣した。（登録者 398 人）

①第39回初級障がい者スポーツ指導員養成講習会の開催

（神戸市スポーツ推進委員、スポーツクラブ指導者、教員を主な対象として実施）

実施日 令和4年7月30日(土)～8月20日(土)のうち5日間

場 所 こうべ市民福祉交流センター

受講者 25人（修了者23人）

②神戸市障害者スポーツリーダースキルアップ講座の開催

内 容 ボッチャ競技審判講習会

実施日 令和4年10月23日(日)、12月11日(日)、令和5年3月5日(日)

場 所 こうべ市民福祉交流センター、しあわせの村

受講者 48人(修了者48人)

③第40回初級障がい者スポーツ指導員養成講習会の開催

実施日 令和5年2月4日(土)、2月5日(日)、2月11日(土)、2月12日(日)、
2月19日(日)

場 所 こうべ市民福祉交流センター

受講者 23人（修了者20人）

④神戸市障害者スポーツリーダーの派遣（のべ641人）

派遣行事名	開催日等	派遣人数
第30回全国身体障害者野球大会	5月14日(土)～15日(日)	43人
第61回神戸市障害者スポーツ大会 フライングディスク	5月21日(土)	21人
第61回神戸市障害者スポーツ大会 陸上競技	5月22日(日)	34人
第61回神戸市障害者スポーツ大会 水泳	5月29日(日)	21人
皇后杯 第31回日本女子車いすバスケットボール選手権大会	8月6日(土)～7日(日)	42人
パラスポーツ王国 HYOGO&KOBE 2022	11月3日(木・祝)	52人
トレイルオリエンテーリング大会	11月13日(日)	16人
第35回神戸市障害者ふれあいロードレース大会	11月26日(土)	35人
第17回神戸市シッティングバレーボール大会	2月26日(日)	47人

脳血管障害者体操教室	5月～7月、9月～11月、 1月～3月	210人
バドミントン教室	6月～8月、1月～3月	120人

障害者スポーツ教室は p47～48 参照

(3) 障害者スポーツ大会の開催

障がい者の機能回復と健康の増進を図るため、神戸市や障害者団体等とともに各種障害者スポーツ大会を開催した。

【主催】

①第 61 回神戸市障害者スポーツ大会の開催

第 22 回全国障害者スポーツ大会「いちご一会とちぎ大会」の予選会を兼ねて開催した。競技の進行は各競技協会の主管のもと、審判員を配置して行った。

種目	開催日	参加者・審判	開催場所
卓球	4月24日(日)	身体障がい者：53人 知的障がい者：101人 精神障がい者：6人 計160人 審判：78人	中央体育館
ボッチャ	5月15日(日)	肢体障がい者：7人 計7人 審判12人	王子スポーツセンター (体育館)
フライング ディスク	5月21日(土)	身体障がい者：44人 知的障がい者：63人 精神障がい者：17人 計124人 審判55人	王子スポーツセンター (王子スタジアム)
陸上競技	5月22日(日)	身体障がい者：61人 知的障がい者：177人 計238人 審判150人	神戸総合運動公園 ユニバー記念競技場
水泳	5月29日(日)	身体障がい者：20人 知的障がい者：70人 計90人 審判13人	市民福祉スポーツセンター
5種目合計		参加者619人 審判308人	

②第 34 回神戸市知的障害者フットサル大会の開催

実施日 令和 4 年 9 月 17 日(日)
場 所 神戸総合運動公園(球技場)
参加チーム 10 チーム
関係者 28 人(神戸市サッカー協会ほか)

③トレイルオリエンテーリング大会の開催

(兵庫県オリエンテーリング協会・こうべ市民福祉振興協会と共催)

トレイルオリエンテーリングを通して、障がいの有無に関わらず相互理解を図り、障がい者がスポーツに取り組むきっかけづくりを行うことで、障害者スポーツの裾野の拡大を図った。

実施日 令和 4 年 11 月 13 日(日)
場 所 しあわせの村
参加者 28 人(身体障がい者 1 人、知的障がい者 8 人、身体障がいと知的障がいの重複障がい者 1 人、健常者 18 人)
関係者 39 人(兵庫県オリエンテーリング協会、こうべ市民福祉振興協会ほか)

④第 35 回神戸市障害者ふれあいロードレース大会の開催

実施日 令和 4 年 11 月 26 日(土)
場 所 神戸総合運動公園ユニバー記念競技場およびその周辺
参加者 150 人(身体障がい者 6 人、知的障がい者 127 人、精神障がい者 2 人、健常者 15 人)
関係者 105 人(神戸市陸上競技協会ほか)

⑤第 17 回神戸市精神障害者バレーボール大会の開催

実施日 令和 5 年 2 月 24 日(金)
場 所 王子スポーツセンター(体育館)
参加チーム 1 チーム(交流戦として実施)
関係者 10 人

⑥第 17 回神戸市シッティングバレーボール大会の開催

実施日 令和 5 年 2 月 26 日(日)
場 所 しあわせの村(体育館)
参加チーム 9 チーム 80 人
関係者 57 人(神戸市障害者スポーツリーダー 47 人：再掲 ほか)

【共催】

⑦第 16 回兵庫県障害者のじぎくスポーツ大会「車いす使用者の部」の開催

(兵庫県・兵庫県障害者スポーツ協会と共催)

実施日 令和 4 年 4 月 30 日(土)
場 所 神戸総合運動公園ユニバー記念競技場
参加者 46 人
関係者 107 人(兵庫県障害者スポーツ協会、神戸市陸上競技協会、兵庫障害者フライングディスク協会ほか)

⑧第 30 回全国身体障害者野球大会の開催（日本身体障害者野球連盟と共催）

実施日 令和 4 年 5 月 14 日(土)～15 日(日)
場 所 ほっともっとフィールド神戸、G7 スタジアム、若葉学園
参加チーム 16 チーム (358 人)
関係者 116 人 (日本身体障害者野球連盟ほか)

⑨皇后杯 第 31 回日本女子車いすバスケットボール選手権大会の開催

(日本車いすバスケットボール連盟・日本パラスポーツ協会・日本バスケットボール協会と共催)

実施日 令和 4 年 8 月 6 日(土)～7 日(日)
場 所 神戸総合運動公園 グリーンアリーナ神戸
参加チーム 6 チーム (72 人)
関係者 200 人 (日本車いすバスケットボール連盟 35 人、兵庫県バスケットボール協会および市内高校バスケットボール部 100 人ほか)

⑩第 24 回全国シニア選抜車いすバスケットボール大会の開催

(日本車いすバスケットボール連盟・日本パラスポーツ協会・日本バスケットボール協会と共催)

実施日 令和 4 年 8 月 6 日(土)～7 日 (日)
場 所 神戸総合運動公園 グリーンアリーナ神戸
参加チーム 4 チーム (60 人)
関係者 200 人 (日本車いすバスケットボール連盟 35 人、兵庫県バスケットボール協会および市内高校バスケットボール部 100 人ほか)

⑪パラスポーツ王国 HYOGO&KOBE 2022 の開催

(兵庫県・兵庫県障害者スポーツ協会・こうべ市民福祉振興協会と共催)

障害者スポーツの普及と身近な場所で障害者スポーツに取り組める環境作りに向けての啓発を目的として開催した。パラリンピック種目を含む 18 競技が一堂に集まり、パラスポーツを見るのも初めてという人も、様々な競技にふれて学び、体験できる機会とした。KOBE2024 世界パラ陸上競技選手権大会組織委員会と連携し、スポーツ義足の特別体験会のブースも設置した。

実施日 令和 4 年 11 月 3 日(木・祝)
場 所 しあわせの村
参加者 延べ(各ブースの参加者数計)4,875 人
関係者 290 人 (競技団体 180 人ほか)

⑫第 18 回水泳記録会の開催

市民福祉スポーツセンター利用者が、障がいの有無に関わらず参加して交流を深め、普段の練習の成果を試す場として、市民福祉スポーツセンターの指定管理者である株式会社 COSPA ウェルネスと共催。

実施日 令和 5 年 3 月 19 日(日)
場 所 市民福祉スポーツセンター プール
参加者 30 人

関係者 11 人（株式会社 COSPA ウェルネスほか）

(4) 障害者スポーツ大会への選手派遣・参加助成

①第 22 回全国障害者スポーツ大会「いちご一会とちぎ大会」への選手派遣

個人 6 種目に出場し、金 20 個、銀 12 個、銅 8 個、計 40 個のメダルを獲得した。

実施日 令和 4 年 10 月 29 日(土)～10 月 31 日(月)

開催都道府県 栃木県

派遣人員 選手 32 人、役員 27 人（計 59 人）

②第 22 回全国障害者スポーツ大会に向けての選手強化

対象種目の競技団体に選手の育成強化費（練習会場使用料、講師謝礼等）を助成した。

③近畿ブロック予選会に向けての選手強化・参加助成

全国障害者スポーツ大会出場を目指す各種障害者スポーツ団体に、育成強化費や近畿ブロック予選会への参加費や移動費等を助成した。

育成強化費 5 団体 150,000 円

参加費・移動費 4 団体 149,187 円

大会名	開催日	開催地	参加者
知的障害者サッカー競技近畿ブロック予選会	5 月 22 日(日)	京都府	17 人
精神障害者バレーボール競技近畿ブロック予選会	6 月 4 日(土)	大阪府	15 人
車いすバスケットボール競技近畿ブロック予選会	6 月 5 日(日)	兵庫県	7 人
知的障害者ソフトボール競技近畿ブロック予選会	6 月 5 日(日)	兵庫県	16 人
知的障害者バスケットボール競技近畿ブロック予選会	6 月 11 日(土) ～12 日(日)	神戸市	12 人
知的障害者フットソフトボール競技近畿ブロック予選会	6 月 12 日(日)	和歌山県	17 人

④第 24 回夏季デフリンピック競技大会(聴覚障がい者のオリンピック)への出場支援

第 24 回夏季デフリンピック競技大会に日本代表として世界へ挑む神戸市の選手に激励金を支給した。

開催期間 令和 4 年 5 月 1 日(日)～5 月 15 日(日)

開催地 ブラジル

支援人数 3 人(バレーボール男子 2 人、バドミントン男子 1 人)

(5) 障害者スポーツ大会の開催助成

障がい者のスポーツの普及・奨励のため、神戸市で開催される大会等に助成を行っているが、令和 4 年度は助成対象としていた大会等が新型コロナウイルスの感染拡大のため中止となった。

中止となった大会

- ・日本身体障害者サッカー親善大会
- ・日本身体障がい者水泳連盟指導者研修会
- ・ひっぱりリーグ神戸' 23 (障害者綱引き大会)

(6) 障害者スポーツ団体の育成

障害者スポーツ団体の登録制度を実施し、障害者スポーツ団体間の現状と課題についての情報交換とその育成を行うため、障害者スポーツクラブ連絡会を開催した。

開催日 令和5年3月24日(金) 登録団体数 18団体

(7) 障害者スポーツ教室の開催

障がい児・者が日常的に機能回復と健康の増進を図るための機会として、当センターの障害者スポーツ指導員等による障害者スポーツ教室を開催した。

参加者 合計 468人

ア. 身体障害児・者スポーツ教室の開催 (小計 132人)

開催場所 市民福祉スポーツセンター (体育館・プール)

教室	開催日等		参加者
脳血管障害者体操教室 (16歳以上)	I期 5月～7月	水曜日 10回	5人
	II期 9月～11月	水曜日 10回	6人
	III期 1月～3月	水曜日 10回	6人
	I期 5月～7月	水曜日 10回	8人
	II期 9月～11月	水曜日 10回	7人
	III期 1月～3月	水曜日 10回	6人
ビームライフル教室 (16歳以上) (※)	前期 5月～7月	火曜日 10回	8人
	後期 9月～12月	水曜日 10回	7人
身体障害者水泳教室 (16歳以上) (※)	前期 5月～7月	火曜日 10回	12人
	後期 9月～11月	火曜日 10回	10人
身体障害児水泳教室 (3歳～高校生親子)	I期 5月～7月	金曜日 10回	3人
	II期 9月～11月	土曜日 10回	10人
	III期 1月～3月	金曜日 10回	4人
ダーツ教室 (16歳以上) (※)	前期 6月～7月	金曜日 10回	7人
	後期 11月～12月	土曜日 5回	10人
夏期水泳教室 (小～高校生親子)	8月	8月22日(月) ～27日(土)	2人
ブラインドテニス教室 (16歳以上)	9月～12月	金曜日 10回	6人

開催場所 しあわせの村

車いすテニス教室 (16歳以上) (※)	8月～11月	日曜日 6回	6人
ローンボウズ教室 (16歳以上) (※)	5月～9月	土・日曜日 5回	9人

イ. 知的障害児・者スポーツ教室の開催（小計 232 人）

開催場所 市民福祉スポーツセンター（体育館・プール）

教室	開催日等		参加者
体操教室（16歳以上）	前期 4月～5月	金曜日 10回	13人
	後期 9月～10月	金曜日 10回	14人
水泳教室 （5歳～小学校3年生親子）	I期 5月～7月	土曜日 10回	10人
	II期 9月～11月	火曜日 10回	10人
	III期 1月～3月	火曜日 10回	10人
水泳教室 （小学校4年生～6年生親子）	I期 5月～7月	水曜日 10回	4人
	II期 9月～11月	水曜日 10回	2人
	III期 1月～3月	土曜日 10回	9人
水泳教室 （中学生～20歳）	I期 5月～7月	土曜日 10回	15人
	II期 9月～11月	土曜日 10回	15人
	III期 1月～3月	土曜日 10回	23人
水泳教室 （16歳以上）（2部制）（※）	前期 5月～7月	土曜日 10回	1部 10人 2部 10人
	後期 9月～11月	土曜日 10回	1部 10人 2部 10人
体操教室 （中学生以上）	前期 5月～7月	金曜日 10回	9人
	後期 9月～12月	水曜日 10回	11人
夏期水泳教室 （小学生親子）	8月	8月22日 （月） ～27日（土）	9人
夏期水泳教室 （中学生～高校生親子）	8月	8月22日 （月） ～27日（土）	6人
体操教室（5歳～小学6年生）	前期 5月～7月	火曜日 10回	10人
	後期 1月～3月	水曜日 10回	10人
体操教室（3歳～就学前）	9月～12月	金曜日 10回	12人

ウ. 障害区分なしの教室の開催（小計 104 人）

開催場所 市民福祉スポーツセンター（体育館）

教室	開催日等		参加者
バドミントン教室（16歳以上）	前期 6月～8月	水曜日 10回	27人
	後期 1月～3月	水曜日 10回	27人
陸上競技教室	前期（4月～9月）	月1木曜日 5回	27人
	後期（10月～2月）	月1木曜日 5回	23人

（※）他団体へ委託して開催

(8) こうべ障害者音楽フェア 2022 ジョイフルコンサートの開催

障がいのある方やその家族に質の高い音楽を鑑賞していただくとともに、障がいのある音楽家の発表の場として、事業の趣旨に賛同された13の企業・団体からの協賛のもと、開催した。会場では車いす席と介助者席を設置し、聴覚障がい者のための要約筆記・手話通訳・磁気ループを配備した。ステージでは、公募で選ばれたデフブラモンキー（全盲の唄三線奏者の玉城氏、感音性難聴で三線奏者の木谷氏）のほか、ゲストとして、ものまねタレントのりょう、トランペッターの広瀬未来氏が率いるMiki Hirose Jazz Orchestra feat. CHAKA が出演し、パフォーマンスを披露した。

実施日 令和4年12月24日（土）

場 所 神戸新聞松方ホール 来場者 391人

(9) 第6回こうべ障がい者芸術フェスタ HUG+（ハグ・プラス）展 2022 の開催

市内で芸術創作活動に取り組む障がい者から作品を公募し、芸術創作活動の発表の場として、展示環境が整った会場で応募作品463点を全て展示することを通して、文化芸術活動を通じた障がい者の個性と能力の発揮、社会参加の促進を図った。優秀作品は、事業の趣旨に賛同された15の企業・団体から協賛を得て顕彰し、最優秀賞受賞作品は、毎年、実行委員会で買い取り、こうべ市民福祉交流センターをはじめ外部への展示を行っている。

また、期間中はKOBE2024世界パラ陸上競技選手権大会の特別展示を行い、大会の認知度向上を図った。

展示期間 令和4年9月17日（土）～9月24日（土）

表 彰 最優秀賞1点、優秀賞5点、審査員賞4点、入選10点、
奨励賞5点 計25点

場 所 県立美術館王子分館 原田の森ギャラリー 本館2階大展示室

来 場 者 1,631人

点字図書館の運営

(1) 蔵書及び貸出し状況

蔵書数	点字図書	3,485 タイトル	13,988 巻
	録音図書 テープ図書	5,398 タイトル	28,920 巻
	デージー図書	4,732 タイトル	4,732 巻
	テキストデージー図書	73 タイトル	73 巻
貸出し数 (自館蔵書)	点字図書	307 タイトル	1,127 巻
	録音図書 テープ図書	206 タイトル	1,174 巻
	デージー図書	2,116 タイトル	2,116 巻

(2) サピエ図書館データのダウンロード状況(自館蔵書データのダウンロード数)

点字	1,977 タイトル	9,520 人
録音	847 タイトル	34,642 人
テキストデージー	61 タイトル	1,340 人

(3) 今年度蔵書図書製作数

点訳	パソコン	93 タイトル	329 巻
音訳	デージー	62 タイトル	62 巻
テキストデージー		11 タイトル	15 巻

(4) 定期行物(雑誌)の貸出し

点字雑誌	14 タイトル	延 34 人、 507 冊
録音雑誌 テープ	0 タイトル	延 0 人、 0 巻
デージー	41 タイトル	延 280 人、 3,644 巻

(5) 他館との相互貸借

①他館への貸し出し

点字	209 タイトル (815 冊)	録音テープ	158 タイトル (900 巻)
		デージー	2,082 タイトル (2,082 巻)

②他館からの借り受け

点字	105 タイトル (416 冊)	録音テープ	87 タイトル (517 巻)
		デージー	7,593 タイトル (7,593 巻)
		一般 CD	160 タイトル (160 巻)

(6) 「サピエ図書館」情報サービス

①利用者に提供した情報(端末からのデータ取り出しを含む)

点字打ち出し 22 タイトル、8,380 ページ

(7) 定期行物等(雑誌)の製作

①点字(10種)

- ・新聞連載「イイミミ」、週刊誌ヘッドライン、パソコン IT ミニ情報、NHK みんなのうた、日経暮らしのミニ情報、ラジオ関西番組表、中医臨床、プロ野球全選手名鑑、新聞連載小説「ふりさけ見れば」、「諸葛亮」

②録音(デイジー4種)

・今月の新刊本案内、f d、くすのき、正平調

(8) ボランティア養成講座の開催

コース	期 間	内 容	曜日	講 師	回数	修了者
点訳	4月～3月	点訳の基礎	木曜	点灯虫グループ	42回	20人
音訳	4月～3月	音訳の基礎	火曜	くすのきグループ	40回	7人
テキストデ イジー製作	4月～7月	テキスト化の応用	第2・第 4金曜	かもめグループ	8回	11人
テキストデ イジー製作	9月～11月	プロデューサー 製作の基礎	金曜	かもめグループ	12回	10人
テキストデ イジー製作	12月～3月	プロデューサー 製作の応用	第2・第 4金曜	かもめグループ	8回	10人

(9) 中途失明者対象の点字講習会の開催

期 間	曜 日	内 容	講師	回数	受講者
通年	火曜 午後	点字の読み書き訓練	市視協	41回	延 271人

(10) 読み書きサービス、対面朗読サービス(通年)

名 称	曜 日	内 容	件数	備考
読み書きサービス	火曜・金曜午後	パンフレット、手紙等代筆・代読	89件	54回実施
対面朗読サービス	随 時	小説、新聞等1時間30分以内	41件	41回 (要予約)

(11) プライベートサービス(個人依頼のあった物を点訳・音訳)

点訳 5件 107ページ 音訳(デイジー版) 4件 4巻

(12) 公的情報 (点訳)11件 909ページ

(13) 機器に関する情報提供・貸出等

名 称	実施月	内 容	人数等
機器相談	4月	iPhone、PTR3、リンクポケット等	24人
	5月	パソコン、iPhone、リンクポケット等	12人
	6月	iPhone、パソコン、スマートスピーカー等	22人
	7月	iPhone、iPad、パソコン等	20人
	8月	パソコン、iPad、点字ディスプレイ等	23人
	9月	iPhone、iPad、パソコン等	16人
	10月	iPhone、パソコン、PTR3等	11人
	11月	パソコン、iPhone、点字ディスプレイ等	12人
	12月	パソコン、PTR3、PTN3等	11人
	1月	iPhone、パソコン、リンクポケット等	18人
	2月	パソコン、iPhone、PTN3等	13人

	3月	パソコン、リンクポケット、iPhone等	20人
	合計		202人

PTR3：卓上型デジタイズ録音再生機、PTN3：卓上型デジタイズ再生機

リンクポケット=携帯型デジタイズ録音再生機、点字ディスプレイ=点字端末

名称	期日	内容	人数等
出前機器講習	11月27日	デジタイズ図書再生機の説明 iPhone・iPadの音声操作説明 テキストデジタイズの紹介 ※灘区ボランティアフェスティバルに出展	2人他
	2月22日	デジタイズ図書再生機の説明 iPhone・iPadの音声操作説明 テキストデジタイズの紹介 ※北区役所内ボランティアルームで開催	4人
福祉機器展	12月3日	機器の展示・相談など(19団体)	96人
PTN3貸出	通年	デジタイズ図書体験用(短期貸出)	延9台

(14) 点字図書館だよりの発行

(年6回、各回 墨字版273部、点字版186部、デジタイズ版137部)

(15) 神戸市「広報紙KOBÉ」「市会だより」の編集発行

区分		発行回数(年)	利用者数	発行部数
広報紙 KOBÉ	点字版	13回	94人	延3,678部
	デジタイズ版	13回	141人	延2,256巻
市会だより	デジタイズ版	4回	23人	延92巻

(16) 点字カレンダーの製作 (2023年版)57部

(17) ボランティア自主研究会・勉強会・研修会の開催支援(通年)

延べ開催回数 360回、延べ参加者 2,962人

点訳(6種)12グループ、英語、理数、理療、校正、楽譜(271回2,346人)

音訳(6種) 実用書、医療、時代物、絵本(リモート含む)、ボイス、

音訳研修(77回 525人)

テキストデジタイズ(2種) 校正、研究会(12回91人)

(18) 館外での職員・ボランティア研修会

期日	行事等	場所・行先	参加者
5/19、7/21、 9/15、11/17 1/19、3/16	近畿点字研究会	対面(日本ライトハウス情報文化センター)・ZOOM開催	18人
10/12～13	全視情協大会(玉水記念会館)	ZOOM参加	1人
10/28	全国盲人福祉施設大会	ZOOM開催	1人

11/16～17	近畿ブロック音訳指導員養成講習会	(大阪市)玉水記念会館	2人
1/20、2/3	ボランティア合同研修旅行	① 1/20 日本ライトハウス 情報文化センター ② 2/3 大阪府立福祉情報 コミュニケーションセ ンター点字図書館	① 15人 ② 14人
1月24日	近畿視情協ボランティア・職員研修会 点訳分科会	対面(和歌山ふれ愛センタ ー)・ZOOM開催	60人

(19) 利用者との交流会の開催

期 日	内 容	共 催	参加者
9月16日	神戸大学落語研究会 講演	点灯虫グループ	16人
3月15日	視覚障がい者向け映画『三屋 清左衛門残日録 -三十年ぶ りの再会-』上映会	くすのきグループ	32人

(20) 福祉体験・啓発事業(児童・生徒の受入れ)

期 日	行事等	対 象	参加者
8月 3日	「目が見えないってどんなこと ～学ぼう障がいのこと～」	下沢学童保育コーナー	コロナ で中止
8月 9日	「目が見えないってどんなこと ～学ぼう障がいのこと～」	東須磨児童館	コロナ で中止
8月17日	「目が見えないってどんなこと ～学ぼう障がいのこと～」	有瀬児童館	30人
① 11/7～8 ② 11/9～10 ③ 11/17～8	職場体験実習(トライやるウィーク)	① 原田中学校 ② 布引中学校、 湊翔楠中学校 ③ 県立視覚特別 支援学校	① 2人 ② 2人 ③ 2人
① 11/10 ② 11/11	視覚障がい者へのガイドボラン ティア講習	職員・当館所属ボランテ ィア	① 14人 ② 14人
11月24日	図書館見学	兵庫県立総合衛生学院	27人
3月14日	視察研修・図書館見学他	韓国福祉施設団	31人

(21) 点字啓発等事業(体験コーナー等行事・教室への指導者等派遣)

期 日	行事等	派 遣	参加者
7月8日	神戸シルバーカレッジ 健康・福祉コース授業	職員、点灯虫グループ	35人
7月8日	市視協・点字競技会	点灯虫グループ	15人

(22) 神戸アイセンターでの相談事業

神戸アイセンター病院を訪れる患者さんを対象に、毎月定例的に職員が赴いてiPhone・iPadの使い方などの機器相談会や生活相談会を開催した。

期 日	内 容	場 所	回数
第一金曜日	iPhone・iPadの使い方	神戸アイセンター・ビジョンパーク	8回
第二月曜日	生活相談・サピエ相談	神戸アイセンター・ビジョンパーク	7回

(23) 読書バリアフリー法にかかる打合せ会

令和元年に制定された「読書バリアフリー法」を踏まえ、視覚障がい者等の読書環境の整備に向けた取り組みを推進するため、中央図書館、障害福祉課、教育委員会、本館が集まり連携体制構築に向けた打合せ会を開催した。

期 日	内 容	場 所	参加者
11月24日	読書バリアフリー法を踏まえた情報共有、連携に向けた意見交換	総合福祉センター	11人

障害者福祉基金を活用した助成事業

障害者福祉基金を活用し、障がい者のスポーツ・文化・福祉活動への助成、障がい者・児を対象とした事業所への助成を行った。

また、障がい者の自立と社会参加を目指し、「神戸ふれあい工房」を拠点に、障がい者施設・就労支援事業所の商品の紹介・販売を促進した。

(1) スポーツ・文化・福祉活動への支援

① フェスピック事業助成

障がい者の社会参加及び地域とのふれあい交流を目的とした事業を実施する団体、事業所、施設に助成を行った。

令和4年度	55件 2,799,000円
令和3年度	42件 1,718,000円

② 障害者文化振興事業助成

障がい者の文化活動を通じて、社会参加や地域とのふれあい交流を推進することを目的とした事業を実施する団体に助成を行った。

令和4年度	578,436円
令和3年度	1,170,636円

③ 障害者スポーツ振興事業助成

令和4年度	53件 850,000円
令和3年度	47件 550,000円

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により事業縮小のため、助成を行わなかった。

(2) 機能訓練及び就労・自主製品開発改善等のための助成事業（清水事業助成）

知的障がい者（児）の福祉向上を目的とした事業を実施する団体・施設に助成を行った。

令和4年度	2,960,600円
令和3年度	2,407,000円

(3) その他の助成

神戸ふれあい工房の自主製品販売運営費として障害者福祉基金から助成した。

令和4年度	788,304円
令和3年度	499,096円

(4) SOCIO-ROOTS 事業助成

三菱電機 SOCIO-ROOTS 基金からの寄付を活用し、障がい児・者を対象に緊急を要する設備の改修や環境整備に必要な備品の購入、通所施設において支援者の技能習得等を目的とする研修に対して助成を行った。

令和4年度	3件 899,000円
令和3年度	5件 991,105円

神戸ふれあい工房の運営

神戸ふれあい工房に加入している神戸市内の 62 施設・事業所の製品を販売した。店舗は、令和 5 年 3 月 31 日にカフェ「Link tree」に併設店舗が開店した。

(1) 外商販売 5,786,258 円

- ①「夏の特選ギフト」「クリスマスギフト」「バレンタインギフト」チラシ販売を実施し、神戸市等に対し周知依頼した。
- ②企業等から景品や記念品等の注文を受けて販売した。

(2) 出張販売 134,190 円

例年出張販売しているイベントが、新型コロナウイルス感染症の影響により、開催回数が大幅に減少したため、出張販売は 5 件のみ。

(3) 販路拡大

貿易センタービル地下 1 階にあるミニショップの一角で、ふれあい工房登録事業所の商品販売を仲介した。

(4) 広報啓発

①ホームページの運用

店舗概要に加え、定番商品の紹介を行った。

②Facebook の運用

おすすめ商品・イベント等の最新情報を掲載した。(投稿回数 18 回)

③Instagram の開設 (R5 年 1 月～)

Instagram を開設することで、Facebook を利用していない層にも広報を図った。

外商販売、活動報告、店舗開設に関する広報などを掲載した。(投稿回数 6 回)

④販売促進ツール

店舗で利用するため、店舗ロゴが入った紙袋を新たに用意した。

⑤マスコットキャラクター「ふわぼん」を使った啓発活動

事業所紹介「ふわぼん通信」を作成。ギフトチラシの裏面に掲載し、SNS で発信した。(3 回)

子ども・子育て支援

(1) こべっこランドの運営

令和5年1月22日にハーバーランドでのこべっこランドの運営を終了し、同年2月11日には、兵庫区和田岬にてリニューアルオープンし運営を開始した。ミズノスポーツサービス株式会社と共同事業体を結成し、管理運営を行った。

児童の健全育成を図るため、①健全育成事業（心身の健康増進を図り、社会的適応力を高め、情操を豊かにする）、②発達支援事業（旧名称：療育指導事業、発達障がいなど配慮が必要な子どもへの支援及び保護者に対しての指導助言、支援者の育成を行う）、③啓発連携事業（大学生・中高生ボランティアの育成や各種啓発事業の実施、地域企業や近隣施設、大学、専門学校や児童福祉施設等との連携）を実施した。

	開館日数	年間入館者数	1日あたり 入館者数	入館者数累計
R4年度	292日(16日閉館)	278,859人	955人	11,476,209人
(旧施設)	248日	155,328人	626人	—
(新施設)	44日	123,531人	2,808人	—
R3年度	280日(28日閉館)	167,885人	600人	11,197,350人
R2年度	254日(52日閉館)	148,177人	583人	11,029,465人

①健全育成事業

0歳から18歳未満のすべての児童を対象とした児童福祉施設として、幅広い年代に向けた健全育成事業を実施した。特に、令和4年度は他者を受容し、一人一人の人格を尊重し、多文化共生できるイベントを行った。また、多人数での交流や接触が難しいコロナ禍にあっても、家族で楽しめるイベントや、子どもたち自身がやる気を失わず、チャレンジする意欲を高めることのできる事業を積極的に実施した。

ア. 「インクルーシブ」こべっこランド

障がいの有無、性別や年齢、国籍に関わりなく、誰でも他者を受け入れ、共に楽しめるこべっこランドを目指してプログラムを実施した。

- ・はじめてのSDGsラリー
- ・夏休み！ホールであそぼう

イ. 「多様な利用形態で楽しむこべっこランド」

- ・YouTubeで動画配信をし、イベントに参加できない子どもたちが楽しめる仕掛けを実施した。
- ・外出できない子どもたちの代わりにお気に入りのぬいぐるみがハーバーランドを冒険している様子を写真に撮り、絵本にして、子どもたちにプレゼントした。
- ・地下鉄海岸線「ヘッドマークコンテスト」を行い、来館者による投票を行った。

ウ. 中高生・高校生の視野を広げ、前向きな気持ちを育てる事業

夏休み以外は、ボランティアとしての利用が主となっている中高生が気軽に立ち寄り、自由に過ごせる場として「こべっこ中高生ランド」を月1回開設した。

今までは夏休みに中学生イベントを行ったが、年間通して実施し、中学生の来

館を促した。

エ. 体力増進事業の充実

運動事業に多くのノウハウを持つ、ミズノスポーツサービス株式会社と共同事業体を組むことで、充実を図った。

- ・はじめて！チャレンジ教室
- ・ミズノ流忍者教室
- ・ミッションプログラム～運動遊び～

【健全育成事業一覧】

◆中学生プログラム ☆高校生ワークショップ ◎ボランティア自主イベント

【大型】

ドキドキゴールデンウイーク	817 人	ヘッドマークコンテスト	197 人
こべっこハロウィン(2日)	2,017 人	おもちゃ箱列車	295 人
カーモのバースデーパーティー(2日)	1,338 人	わくわくひろば(9回)	157 組
※夏休み！ホールであそぼう(19日)	3,189 人	よちよちひろば(9回)	110 組
※ありがとうハーバーランド	761 人	あかちゃんひろば(9回)	202 組
※オープニングイベント		※すくすくたいむ(18回)	396 組
あそびマーケット	3,600 人	※ベビーたいむ(18回)	388 組
～神戸の児童館大集合～			

【スポーツ】

※はじめて！チャレンジ教室(8回)	201 人	わんぱく体操教室(6回)	143 人
※ミズノ流忍者学校(2回)	38 人	(3回、1学期中止)	
※ミッションプログラム～運動遊び～	608 人	親子体操教室(6回)	149 組
◆ドローン操縦体験	7 人		

【料理】

アイスクリームカップケーキ(4回)	124 人	体においしいクッキング1学期	88 人
クリスマスケーキ(4回)	120 人	体においしいクッキング2学期	108 人
かたつむりパン(4回)	122 人	親子でそば打ち体験(2回)	52 人
カーモパン(4回)	118 人	◆パティシエ体験	14 人
チョコカップケーキ(4回)	122 人	※老祥記の豚まんを職人さんに	
和菓子(練りきり)(4回)	105 人	学ぼう(4回)	68 人
こいのぼりクッキー(4回)	124 人	プロに学ぶ料理教室	
ハロウィンクッキー(4回)	110 人	(カフェプレート)	32 人
		(おせち)	30 人

【造形】

芸工大造形ワークショップ(4回)	457 人	ウッドクラフト(2回)	219 人
親子で一緒にロボクラフト(2回)	39 組	造形特別プログラム(10回)	1,653 人
◆建築家体験	20 人		
※◆アニメーター体験	11 人		

【音楽】

小学生ドラム教室(6回) ～とびだせ音楽スタジオ～ スマイルコンサート(4回) クリスマスコンサート(2回) ドラムにチャレンジ(40回) ギターにチャレンジ(12回) ◆ドラムワークショップ(3回)	11人 317人 267人 458人 137人 17人	☆ハッピーコンサート (北須磨高校) ※ロバの音楽座「森のオト」 はじめての楽器遊び1学期(10回) はじめての楽器遊び2学期(6回) ※ありがとうコンサート	149人 182人 14組 16組 219人
--	--	--	------------------------------------

【文化】

人形劇公演(クラルテ) ◆声優体験～学べ!声優力～ ※35年間ありがとう写真展(12日)	198人 11人 891人	こべっこ寄席 ☆和太鼓(須磨翔風高等学校) ものづくり体験(2回) ものづくり体験(左官)(2回)	85人 130人 110人 35人
--	---------------------	--	----------------------------

【環境・科学】

親子昆虫教室(2回) 昆虫標本展 ☆神戸高校サイエンス教室(2回)	43人 190人 47人	◆薬の調合にチャレンジ ◆iPadでつくろう(警報の為中止) ◆物の性質を調べよう ～酸とアルカリ～(2回)	19人 28人
---	--------------------	---	------------

②発達支援事業

療育指導事業から発達支援事業に名称を変更し、障がい児とその保護者への指導・助言のみならず支援に主眼を置き、発達がゆっくりな子どもへの支援や子育て中の保護者、保育や療育の現場で活躍する専門職、ボランティアに対して各種教室・講座・研修を行った。

ア. 発達支援プログラム

神戸市こども家庭センター、大学の研究グループと協働で多様な児童の問題、特性や発達の状況等、乳幼児から小学生までの児童を対象に、個別指導や集団指導を行った。一方、子どもの問題等子育てに悩む保護者を対象に、グループ指導を中心とした子育て講座など、児童と保護者を支援する教室を開催した。

- ・1,500g未満で生まれた赤ちゃんとその家族のための子育て支援教室(YOYOクラブ)
- ・学齢期・思春期子育て講座(学齢期・思春期親グループ指導)

概ね4歳から中学生までの子どもの発育上の課題(情緒不安定、生活意欲の低下、学校不適応、ウソ、徘徊、いじめ等の問題行動)や親子関係のつまずき(子どもの気持ちがわからない、対応に困る)といった諸問題への早期の支援をした。

- ・親と子のふれあい講座

すべての家庭における子育てを支援する「子育て、親育ち応援」のためのプログラム開発とその普及を目的としている。親子で参加する0歳児・1歳半児対象の講

座と、小学校低学年とその親を対象とする「おねしょ講座」、発達が遅く幼稚園児・保育園児とその親を対象とする「家族支援講座」の4つの講座を開発し展開した。

・障がい乳幼児親子教室

ダウン症児の発達を促進するための援助を行うとともに、その親への指導・助言を通じて望ましい親子関係の成立、及び通園施設・幼稚園・保育所等、本格的な集団参加への準備をした。

・感覚運動指導教室

3～10歳の自閉スペクトラム症や知的障がい、注意欠如・多動症（ADHD）等の子どもに、臨床観察を実施し、感覚統合理論に基づいた指導を行った。

重度心身障がい児とその家族を対象に感覚運動遊具を使ったあそびの活動や保護者同士の交流を図る「チャレンジルーム」を3回開催した。

事業名・講師	対象	人数
極低出生体重児とその家族 のための子育て教室 －YOYOクラブ－ 畠山 美穂 甲南女子大学教授	出生体重 1,500g 未満の修正月齢 3ヵ月 ～概ね 2歳半の 乳幼児とその家族	総数 41組 延べ 273人
学齢期・思春期子育て講座 倉石 哲也 武庫川女子大学教授	概ね 4歳～15歳の 子どもの対応に 悩んでいる保護者	・学齢期講座 54期 6人6回 55期 6人6回 ・思春期講座 24期 6人3回 25期 7人4回 ・就学前講座 20期 10人4回 21期 4人4回
	拠点児童館職員	・拠点児童館支援 2館8回
親と子のふれあい講座 大島 剛 神戸親和女子大学教授	乳幼児と保護者	総組数 16組、延べ 240人
	診断を受けているか療 育手帳を持っている幼 稚園・保育所年中・年 長児と保護者	・家族支援講座 8組6回
	夜尿児と保護者	・おねしょ講座 中止
	拠点児童館職員	・拠点児童館支援 6館54回
障がい乳幼児親子教室 安藤 忠 大阪府立大学名誉教授	0歳～4歳の ダウン症児と その保護者	・グループ指導 19組33回、 延べ 438人 ・個別指導 24組、延べ 56回 ・言語指導 11組、延べ 23回

感覚運動指導教室 中林 稔堯 神戸大学名誉教授	3歳～10歳の知的障がい児、発達障がい児、 ダウン症児等	・感覚運動指導（前期） 6人12回 ・感覚運動指導（後期） 6人12回 ・教育相談 21人21回
	保育士・児童館職員等	・拠点児童館出張講座 3館6回

③居場所づくり事業

ア. きらきらルームの実施

土曜日（概ね月1回）と、夏休みの平日（概ね2週に1回）、感染防止対策を取りながら定員枠を設けて予約制で年間14回実施した。「自由あそび」と講師を交えて保護者同士が交流や情報交換ができる「みんなでトークタイム」からなっている。

	対象児	大人	兄弟姉妹	計
令和4年度	136人	163人	62人	361人

イ. スマイルクラブの実施

発達がゆっくりな小学4年生～中学生までの子どもと家族を対象に、パソコン・運動・自由あそびなどを取り入れた年齢に応じたプログラムを実施した。

- ・プログラミング教室（2回）11組 22人
- ・スマイルルーム（3回）7組 15人
- ・親子クッキング教室（1回）8組 16人
- ・はじめてのドラムにチャレンジ（1回）7組 20人

ウ. 障がい児保育ゼミ（全5回）

保育所（園）、幼稚園、認定こども園、児童館等で障がい児童を担当している保育者が事例発表やディスカッションを通じて、①発達評価についての理解・方法 ②園・施設での適応状況についてのとらえ方・考え方 ③保護者の障がい受容レベルの理解と対応 ④障がいについての基本的な考え方 ⑤保護者の養育態度と担当者との関係のあり方などを学ぶ実践的な研修を開催した。令和4年度は、新型コロナウイルス感染症拡大のため回数を7回から6回に、参加者も定員を減らして20人（20園）で実施した。

エ. 臨床心理士による休日子育て相談

他の相談機関が休みの日曜日に、利用しやすい総合児童センターで臨床心理士が相談に対応し、保護者の育児疲れや子育て不安の軽減、虐待予防に努めた。（27回）

オ. 「発達障がいセミナー（市民講座・専門講座）」

療育指導事業（発達クリニック）の講師陣を中心に、市民ボランティア対象の講座（5講座7回）を開催し子どもと家族の支援に繋げた。また、学校園・児童館・放課後等デイサービス職員等の専門職を対象の講座（4講座19回）を開催し、保育や療育の現場で子どもたちに関わる職員の資質向上を図り、早期発見・早期支援を行えるように支援した。令和4年度も新型コロナウイルス感染症対策として定員を半分にして開催した。また一部講座をYouTube配信で実施した。

- ・1,005人

- ・専門講座 参加者 513 名

カ. おあしすルーム

障がいのある子どものきょうだいと家族のための居場所。普段さみしい思いをしているきょうだいと保護者が一緒に楽しい時間を過ごせるプログラムを実施し、親子ともにリフレッシュできるよう支援した。

- ・1回6組

キ. パパママサポートセミナー

両親と一緒に参加することで、お互いの思いを共有でき、よりよい親子関係のヒントが見つかるよう子どもへの関わり方を学んだ。

- ・5回6組51人

ク. 孫を知ろう、支えよう

発達障がいについての理解を深め、子どもや孫とのコミュニケーションに役立つ祖父母としてのかかわり方のポイントを学んだ。

- ・2回49人

④啓発連携事業

幅広い年代のボランティアの育成、ボランティアと子どもたちの交流を目的としてボランティア活動の推進を行った。

また、神戸市内の小学生が福祉マインドを持ち、成長できるよう、多文化共生や障がいについての理解を深める啓発連携事業を実施した。

【ボランティア登録数】

ボランティア名	登録数	延べ活動人数
社会人ボランティア (KSS)	7人	43人
大学生ボランティア	54人	562人
大型イベント高校生ボランティア	28人	36人
療育サポーター	19人	157人
中高生ボランティア	20人	179人
合 計	128人	977人

【啓発連携事業】

こべっこマルシェ	30人	◎こべっこクリスマス(6回)	198人
ぬいぐるみの大冒険 (友生支援学校)	6人	◎こべっこパーク(6回)	353人
こべっこ中高生ランド(11日)	214人	こべっこ BOSAI 教室	151人
※はじめてのSDGsラリー(3日)	255人	～家族で楽しくまなぼうさい～	

⑤地域の子育て支援

ア. 市内の児童館支援

- ・発達障がい児等対応の巡回支援事業

市内児童館等の放課後児童クラブに在籍している発達障がい児等の配慮の必要

な子どもに、より良い支援ができるよう心理士が巡回し、放課後児童クラブの現場で対象児の観察と発達の特徴に合った関わり方等を助言する職員研修を行った。

講師は総合児童センター臨床心理士が担当した。令和4年度は32の児童館・学童保育コーナー、民間学童保育所をのべ35回巡回し、2月に3～4館合同のグループワークで年度末カンファレンスを6回行った。実際に取り組んだ事例を講師とともに振り返ることで、良かった点、改善すべき点が明確になり、より良い支援につながった。

・児童館派遣・支援事業

児童館、学童保育コーナーに講師や団体を派遣し、遊びや子育て支援のプログラムを実施することで、児童館における児童館活動の充実を支援した。

イ. 拠点児童館の支援

総合児童センター（こべっこランド）の療育指導事業と連携して、拠点児童館の子育て専門講座、保育士や施設職員等への指導者向け講座を実施した。また、発達がゆっくりな乳幼児親子の居場所【J-cafe】に臨床心理士を派遣し、拠点児童館事業の充実を図った。

ウ. 職員研修

児童館全体の質の向上を図るため、職員研修を実施した。

内容	回数	内容	回数
全市館長コーナー長・分室長研修	1	市民救命士講習	1
新任館長・コーナー長・分室長研修	2	特別支援研修個別支援研修	1
全市指導員研修	1	親子館事業研修	2
新任指導員研修	3	学童保育リーダー研修	2
次年度新規採用指導員事前研修	1	のびのびひろば職員研修	2
放課後児童支援員研修	2	区内指導員研修	1
新任放課後児童支援員研修	2	区内放課後児童支援員研修	1

(2) 児童館の運営

厚生労働省による「児童館ガイドライン」を踏まえ、児童館運営の一層の充実を目指し、①児童健全育成事業の推進（遊びを通じた子どもの発達増進と安定した日常生活の支援）、②子育て支援事業の推進（子育て家庭への支援）、③地域連携の推進・地域とのネットワークづくりを運営方針とし、市社協児童館の運営支援にて取り組んだ。

児童館については、平成30年度から神戸市が順次指定管理者の公募を実施しており、令和4年度は長田区の公募に応募し、6館の指定管理者に指定された。

	受託館数	延べ利用人数
R3年度	児童館 46 館（内 拠点児童館 6 館、 中高生の活動拠点事業 1 館） 学童保育コーナー 28 コーナー、 1 分室（内 放課後こどもひろば 6 か所）	児童館 673,943 人 学童保育コーナー・分室 321,414 人
R4年度	児童館 45 館（内 拠点児童館 6 館、 中高生の活動拠点事業 1 館） 学童保育コーナー 30 コーナー、 1 分室（内 放課後こどもひろば 6 か所）	児童館 701,959 人 学童保育コーナー・分室 351,099 人

①子ども育成事業

日々の遊びや様々な行事を通して、子どもの健全育成を図るとともに仲間づくりや心と体の育ちを支援した。また、楽しく魅力ある児童館になるよう児童館内外の環境整備に努め、子どもたちに豊かな遊びを提供した。

ア. 季節行事（夏まつり、ハロウィン、クリスマス会等）、運動あそび（なわとび検定、卓球大会等）、ゲーム（オセロ、ボードゲーム等）、創作あそび（工作、カプラ、ビーズ等）、伝承あそび（こま、けん玉、なわとび、あやとり、お手玉、かるた等）、音楽あそび（ミュージックベル、銭太鼓等）、絵本の読み聞かせ、紙芝居・エプロンシアター等の鑑賞。

イ. ふれあい交流事業

・高齢者とのふれあい交流事業

児童館を拠点として、児童と高齢者が地域ぐるみで交流することにより、児童に高齢者へのいたわりや敬愛の念、思いやりの心など、情操を高めることを目的に実施した。コロナ禍の影響で直接的な交流ができにくい状況であったが、今年度は、直接手紙やプレゼント、また出向いての交流を実施できるようになってきた。（37 館・3 コーナー）

・自然とのふれあい交流事業

環境や自然について楽しみながら学び、エコ（環境）活動を通して子どもたちが人と自然とのかかわり、環境問題について、関心や理解を深める事業を実施した。（39 館・8 コーナー）

ウ. 点字図書館と児童館による福祉体験協働事業

障がい者福祉について学ぶ機会を提供し、子どもの福祉の心の醸成を目指すことを目的に点字図書館の紹介・点字体験等を実施した。(1館) ※新型コロナ感染症のため1館、1コーナー中止。

エ. 子どもの居場所づくり (社会福祉推進基金を活用)

学童保育クラブ登録以外の子どもが、家庭に長時間一人で過ごすことがないように、児童館を活用して子どもの居場所づくりを実施した。

(実施プログラム:おべんとうひろば、学習支援、食に関するの体験)

実施館:北青木、神戸諏訪山、生田川、長尾、横尾

オ. 中高生の活動拠点事業

中高生の居場所として、また「ユースステーション北」としての機能も併せフリースペースの提供等、中高生事業等を実施した。

実施館:すずらんだい (中高生延べ利用人数 2,115人)

②親子館事業

児童館で行う在宅育児家庭支援事業を総称して「親子館事業」とし仲間作りを図るとともに、親子の居場所となるよう取り組んだ。

名称	対象者	内容・実施回数	実施館数	
すこやかクラブ	幼児(2~4歳)とその保護者(登録制)	親子遊び・保護者交流・子育て講座・避難訓練、週1回実施 ※託児あり、要年会費	38館	登録者数 357人
なかよしひろば	0歳から就学前乳幼児とその保護者(自由参加)	親子遊び・親子交流・子育て相談、週3回以上	45館	延べ参加者数 57,868人

③放課後児童クラブ (学童保育)

保護者が就労等により昼間家庭にいない小学生を対象に、放課後の遊びや生活の場を提供し、子育てと仕事の両立支援や放課後における児童の健全育成を行った。

	実施箇所数	登録児童数 (R5.3月)	年度平均 登録数
児童館	42館	2,325人	61人
学童保育コーナー・分室	30コーナー・1分室	1,845人	65人
合計	73箇所	4,170人	62人

ア. 8時開設の実施 (73施設)

イ. 児童入退室管理及び保護者等連絡システム導入 (73施設)

ウ. 警報発表時の受け入れ実施

④放課後こどもひろば事業

放課後児童クラブ (学童保育) と神戸っ子のびのびひろば (放課後子供教室) を包括的に運営した。登録児童数 739人

(人)

実施場所（小学校）	灘	和田岬	鈴蘭台	横尾	高丸	長坂	合計
延べ参加児童数	2,780	2,974	2,433	2,282	4,891	7,010	22,370

⑤児童館子育て相談事業

育児に関する様々な問題について相談に応じた。(8,224件)

⑥拠点児童館事業

児童問題に関する専門性を有する児童館を「拠点児童館」と位置づけ、総合児童センターと連携した子育て専門講座や指導者向け講座を実施した。また、発達がゆっくりな子どもと保護者の支援等に取り組んだ。

ア. 総合児童センターと連携した子育て専門講座

講座	実施館	参加者数
赤ちゃんとのふれあい講座	魚崎・河原・有野・細田・落合・愛垂	68組
おねしょをとおした子育て講座	魚崎・有野	延べ12人
学齢期子育て講座	落合・愛垂	延べ58人

イ. 指導者向け講座

講座	実施館	参加者数
保育現場で活かす感覚運動あそび	河原・落合	延べ48人
保育現場で活かす インリアル・アプローチ	魚崎・有野・細田・愛垂	延べ99人

ウ. 発達がゆっくりな子どもの居場所（Jidoukan-cafe（通称：ジェイカフェ））

発達がゆっくりな子どもと保護者が安心して過ごせる場の提供や、保護者同士の交流を図ることを目的として実施した。

エ. 区の特성에基づく事業

- ・中町マルシェ（有野）
- ・あおぞら☆きよてんじどうかん（細田）
- ・子どもヘルパー活動（落合）
- ・学習支援〈すいすいサマースタディ〉（愛垂）

⑦キャナルタウンおやこひろば

就学前の乳幼児とその保護者が、ゆったりと過ごせる居場所の提供を行った。

ア. 発達の気になる乳幼児と保護者を対象とした支援事業（駅前 J-cafe）

イ. こべっこランド臨床心理士の子育て相談（おはなしききますよ）

ウ. アシックスコンディショニングセンターとの連携事業（ぴよんぴよんたいむ）

エ. 兵庫児童館親子館事業、兵庫区おやこふらっとひろばとの連携

⑧子育てコミュニティ育成事業（児童館日曜日等開放）

地域の各種団体やボランティアで構成する「開放委員会」等が実施する児童館の日曜日等の開放や地域子育て行事などの「子育てコミュニティ」事業の支援を行った。(42館)

⑨その他の事業

児童館実習生の受け入れ

保育士、児童厚生 1、2 級指導員資格等を希望する学生の実習を受け入れ、福祉人材育成を行った。(14 館、21 人)

⑩登録センター〈放課後児童支援員・ひろば指導員〉

放課後児童支援員・ひろば指導員の登録受付を行った。

(ホームページからの閲覧も可) 登録者数 67 人 採用決定者数 16 人

令和 5 年 2 月にインターネットを利用した登録フォームを新設し、登録しやすい環境を整えた。また、チラシ・ポスターをリニューアルし、新たな配架・掲示先の開拓を行った。(配架・掲示先 308 施設)

(3) 地域の子育て支援

子育てしやすいまちづくりをめざし、地域における子育て・子育ての課題に対応するため、地域の子育て人材の育成及び関係機関や子育て支援者等とのネットワークづくりを推進した。

①地域子育て支援事業推進業務

身近な地域で子どもたちの育ちを支援するため、区社協に 1 名ずつ配置された子育てコーディネーターを中心として地域における子育て支援の充実を図った。

ア. 子ども・子育てサポート事業

近隣に児童館がない地域において、地域福祉センター等の当該地域の子育て世帯が参加しやすい施設を活用し、子育て親子が集える場を提供し、交流の促進及び子育てに関する相談援助等を実施した。

イ. 児童館及び学童保育施設の運営支援

市内すべての児童館及び学童保育施設を訪問し、適切な運営に向けて相談及び支援を行った。

	巡回訪問
市社協運営児童館	77 回
他法人運営児童館	145 回
他法人運営児童館移管支援	19 回

ウ. 児童館及び学童保育施設の職員対象研修の実施

喫緊の課題への対応力の向上および区内の職員同士の情報共有を目的として、各区において年 3 回の研修を実施した。

②こどもの居場所づくり事業推進業務

子どもたちが地域で安心して過ごすことができる居場所の立ち上げ・運営に関するコーディネート機能を強化するため、令和 3 年度に引き続き区社協（5 区）に職員を配置し、区役所、関係機関等と連携し地域の様々な人たち（店舗、学校等含む）とともに、地域ぐるみで子どもの育ちを支えられるよう調整をした。

ア. こどもの居場所実施団体への支援

各区こどもの居場所づくり推進担当職員と年 4 回担当者連絡会を開催し、課題や成功事例を共有し、支援方法の拡充につなげた。

イ. 研修会・交流会の実施

こどもの居場所づくり事業を実施する関係団体への支援の一環として、各区で講師を招くなどして、研修会や交流会を行った。

ウ. こどもの居場所づくり事業ポータルサイトの開設

こどもの居場所実施団体の紹介や居場所づくりに関する講座や研修会、補助金制度の案内などを行うポータルサイトを開設するとともに、寄付物品マッチングのしくみづくりを行った。

エ. コープこうべとの連携による配送システムの構築

コープこうべの各区拠点店舗における寄付物品の受け渡しを、3店舗で試行実施した上で協定を締結した。

③神戸市子ども会連合会(市子連)事務局の運営

地域の子ども会活動の活性化を図るため、事務局の運営を神戸市子ども会連合会から受託した。神戸市への補助金申請や市子連理事会、常任理事会の運営を中心に活動をサポートした。

【子ども会の組織状況】

	単位子ども会数	構成員数
令和4年度	129	6,332人(会員数4,713人、指導者等1,619人)
令和3年度	135	6,810人(会員数4,940人、指導者等1,870人)
令和2年度	149	7,603人(会員数5,505人、指導者等2,098人)

【市子ども会連合会の開催行事】

事業名	実施日時・場所	参加者(人)
歴史ウォーク ～兵庫を歩く～	日時:令和4年10月23日(日)10時 場所:兵庫区南部(JR兵庫駅南側広場→兵庫大仏→真光寺→中央市場→清盛塚→初代県庁館→新こべっこランド→ノエビアスタジアム芝生広場→JR和田岬駅)	50名
第4回ドッジビー大会	日時:令和4年12月3日(日)9時 場所:長田文化センター	22名
第24回神戸市子ども会絵画コンクール	(表彰式) 日時:令和5年1月29日(日)10時 場所:神戸市総合福祉センター (展示) 日時:令和5年1月25日(水) ～2月12日(日) 場所:みなとやま水族館	応募数 113点
防災ポリ袋クッキング	日時:令和5年2月11日(金)10時 場所:兵庫県立神戸生活創造センター	3組

(4) ファミリー・サポート・センターの運営

子育て中の方(依頼会員)が、仕事や急な用事などで子どもの世話ができないときに一時的・臨時的に近隣の方(協力会員)がサポートをする、地域における会員相互の子育て支援の仕組みとしてのファミリー・サポート・センターの運営を推進した。センター事業の広報活動に努めたほか、各種講習会等の実施を通して協力会員の資質向上を図った。

① 会員登録状況

(単位：人)

区別	東灘	灘	中央	兵庫	北	長田	須磨	垂水	西	合計
依頼会員	978	676	618	214	290	103	343	612	460	4,294
協力会員	248	157	152	81	191	69	165	242	202	1,507
両方会員	43	47	32	12	26	10	29	38	34	271
合計	1,269	880	802	307	507	182	537	892	696	6,072

② 協力会員活動内容

(単位：件)

保育施設・幼稚園の送迎	2,768
保育施設・幼稚園の登園前・帰宅後の預かり	2,337
子どもの習い事等の送迎	1,781
放課後児童クラブ終了後の預かり	759
小学校・特別支援学校等の登校前の預かり及び送り	677
保護者のリフレッシュの際の預かり	587
学校の放課後の預かり	568
その他(自宅就労時、買い物等外出時、保護者等の病気、兄弟姉妹の習い事等、保護者の病気、急用時などの預かり)	1,881
計	11,358

③ 活動内容

ア. 協力会員講習会

協力会員登録予定者を対象に講習会を開催した。

	開催日	参加者数(人)
第1回	4月27日(水)・28日(木)	22
第2回	5月26日(木)・27日(金)	14
第3回	6月21日(火)・22日(水)	18
第4回	7月12日(火)・13日(水)	5
第5回	10月19日(水)・20日(木)	18
第6回	11月15日(火)・16日(水)	14
第7回	1月24日(火)・25日(水)	11
延べ参加者計		102

イ. フォローアップ講習会

協力会員のスキルアップと安全で楽しいサポート活動が出来るよう、フォローアップ講習会を開催した。

開催日	内 容	参加者数(人)
2月1日(水)	子どもを知る手がかり～発達障がい児の理解と対応～ 講師:公認心理師・特別支援教育士スーパーバイザー 根来 あゆみ 氏	14
3月1日(水)	家庭で子どもを見守るために～子どもの病気とけがの対応～ 講師:NPO 法人ハンモック代表・大阪小児科医会理事 福井 聖子 氏	12
計		26

ウ. 子どもの救急救命講習 (年2回 20人)

安全・安心な援助活動を行うために子ども対象の心肺蘇生法、AED 使用法などの救急救命講習を実施した。

エ. 依頼会員入会説明会

依頼会員になるための説明会をニーズに合わせた形で実施した。

- 集団説明会 37回 485人
- 個人説明会 4回 4人
- 灘区説明会 2回 27人 (灘区役所)
- ※灘区拠点児童館事業として実施(河原児童館)
- オンライン説明会 17回 189人

オ. 会員交流会

会員相互の交流を目的に会員交流会を実施した。

開催日	内 容	参加者数(人)
6月7日(火)	フルートアンサンブルコンサート ～プロが奏でる音楽に癒されませんか～	29
3月8日(水)	ファミサポ寄席～笑いから得られる新たな活力～	26
計		55

カ. 地域リーダーによる活動

ファミリー・サポート・センターと会員とをつなぐパイプ役を担い、センターの補佐的な業務を行なう「地域リーダー」(各区1～2名)を選任し、地域リーダー連絡調整会議(年6回開催)、会員交流会の企画運営、個人説明会など、センター主催行事のサポートを行った。

キ. 広報活動

- a. ファミリー・サポート・センター通信の発行 年3回
- b. 協力会員講習会・依頼会員入会説明会チラシの配架
- c. 広報紙 KOBE へ協力会員講習会案内記事の掲載 年7回
- d. 広報用リーフレットの改訂

従来版の文字数を減らして、二次元コードを活用するなど、より見やすいもの

に改訂し、各区保健福祉課の母子保健担当ラインをはじめ、おやこふらっとひろばなど、関係各所への配布や制度説明を実施した。

e. ホームページでの情報発信

f. 神戸婦人大学受講者向けに制度の説明及び「子どもと遊び」の講義

g. シルバー人材センター会報への掲載

シルバーポイント対象事業として、ポイント登録とあわせて、センター事業への参加呼びかけを行った。

ク. ファミリー・サポート・センター運営支援システムの導入

これまでの利用システムは、センター職員が利用調整や統計処理用に使用していたが、令和4年5月より新たな依頼会員に対する説明会申込み及び登録をオンラインで行える新システムを導入した。さらにシステムによる利用申込みや活動実績報告書の提出など、既存会員利用メニューの運用に向けて、モニター期間を設けて検証を実施するとともに、活用しやすいマニュアル(協力会員向けと依頼会員向け)を作成、12月から全会員を対象として稼働させた。

地域福祉施設の管理運営

市民の福祉活動推進拠点である総合福祉センター、こうべ市民福祉交流センターの管理運営を行った。

(1) 総合福祉センターの管理運営

①貸会議室利用状況

室名	第1会議室	第2会議室	第3会議室	第4会議室	第5会議室	合計
利用件数	639件	579件	665件	482件	640件	3,005件

②社会福祉研修室利用状況

室名	第1研修室	第2研修室	第3研修室	第4研修室	第5研修室	合計
利用件数	526件	590件	396件	500件	543件	2,555件

③障がい者福祉センター会議室等利用状況

室名	A会議室	B会議室	C会議室	体育室	合計
利用件数	438件	506件	631件	473件	2,048件

④障がい者福祉センター駐車場利用状況

利用台数	4,916台
------	--------

③、④は障害者福祉センターの委託業務

(2) こうべ市民福祉交流センターの管理運営

貸室利用状況

室名	件数	室名	件数
201教室	337件	401研修室	—
301教室	233件	402研修室	—
302教室	332件	403研修室	—
303教室	303件	501研修室	387件
304教室	—	502研修室	473件
介護実習室	102件	503研修室	323件
調理実習室	43件	合計	2,445件

※304・401・403教室は貸室利用なし

神戸市介護サービス協会事務局の受託

(1) 協会の概要

介護保険制度に関係する団体が連携し、介護保険に関係する情報共有や各分野に共通する課題検討、サービスの質の向上への取り組みを行った。

(2) 構成団体（7団体）

神戸市老人福祉施設連盟、神戸市介護老人保健施設協会、神戸市民間病院協会、神戸市シルバーサービス事業者連絡会、神戸市医師会、神戸市歯科医師会、神戸市薬剤師会

(3) 協力団体（4団体）

兵庫県訪問看護ステーション連絡協議会神戸ブロック、神戸市ケアマネジャー連絡会、神戸市リハ職種地域支援協議会、兵庫県栄養士会

(4) 主な事業

新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、オンラインを活用した研修会等の開催を促進した。

①総会、理事会、運営委員会等開催

総会（1回）、理事会（2回）、運営委員会（5回）、神戸市との意見交換会（2回）

②部会開催

居宅介護支援サービス部会（6回）、在宅サービス部会（6回）、施設サービス部会（6回）

③研修会の実施

全体研修会（3回・ハイブリット開催/対面開催/オンライン開催）、
サービス提供責任者研修会（3日コース×1回）、オンラインセミナーシリーズ（4回シリーズ×1回、3回シリーズ×6回）

④調査・研究

介護事業者の経営状況に関するアンケート

⑤協会事業の広報

機関紙発行（2回）、ホームページの運営、公式LINEアカウント、メールマガジン

⑥神戸市高齢者介護士認定事業の実施

神戸市高齢者介護士委員会（3回）、実務者会（4回）

神戸市高齢者介護士講習会（4回：うち2回はオンライン開催）

神戸市高齢者介護士認定試験（1回）

ミッション3 つながり、支え合う

地域福祉活動の推進強化

(1) 区社会福祉協議会との連携・協働

区社協との連携のもとで、ふれあいのまちづくり協議会をはじめとした地域団体や専門機関、区行政と円滑に連携・協働を進め、小地域単位で住民同士が支え合える仕組みづくりに取り組んだ。

各区社協においては、各ワーカーや事業の担当者間で、情報や課題を共有し、各々の視点を活かした連携・協働を行い、コロナ禍で複雑・多様化した課題に対し、区社協の総合力で事業を展開した。

①地域福祉部会の運営

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点より、区社協代表者等による地域福祉部会を書面にて開催し、各区の特色に応じて実施している事業等の情報共有、事業を展開する上での課題についての検討や意見交換を行った。

②区社協の組織体制に合わせた連絡会等の開催

区社協との連携を深め、市社協・区社協が行う地域福祉事業を円滑に進めるため、神戸市も含めた連絡会を開催し、情報交換と課題の協議を行った。

③成年後見制度の利用手続き相談室の運営

相談室の確保や相談者の受付、広報など、区社協の運営協力を得て「成年後見制度の利用手続き相談室」を市内全区で開設し、住民に身近な窓口での相談機能の充実を図った。

④地域福祉推進を目的とする各区社協事業への助成

「地域福祉推進基金」を活用し、「だれもが住みなれた地域で安心して心豊かに暮らせるまちづくり」を目標に、地域住民やボランティア等との協働のもとで、区社協が実施する地域福祉の推進を目的とした事業及び社会福祉法改正に伴う、各区社協の法人基盤の強化も含めた経費の助成を行った（9区計：7,799,125円）

【各区社協助成事業一覧】

区	事業名	助成額 (うち法人基盤強化分)
東灘	「えんがわ」事業、なかよしキッズ、地域福祉フォーラム、地域の心と心を結ぶ「おむすびカレンダー事業」	1,905,000円 (1,000,000円)
灘	地域子育て支援事業ベビーキャラバン、子育て応援プロジェクト、ボランティアフェスティバル	618,293円
中央	子育て世帯包括支援事業、支え合いミーティング	700,000円
兵庫	つどいの場活性化事業、やさしさと思いやり教育推進事業、地域貢献的居場所づくり、区社協広報誌・さんぼみち	559,400円
北	ひきこもり・不登校の人たちの居場所づくり事業、地域子育てパワーアップ事業、支え合いのまちづくり事業	653,854円

長田	地域活動への講師派遣助成事業、障がい福祉サービス事業所等の連携強化事業、地域共生事業（日本語教室によるコミュニケーションスキルの向上事業）	1,000,000円
須磨	未来につなぐ福祉のこころ育成事業、区社協広報活動及び地域団体の広報活動支援	830,837円
垂水	子育てサークルへの講師等派遣事業、児童館・コーナーへのイベント派遣事業、終活セミナー開催事業、元気なうちの税務相談、区社協お役立ちガイド冊子の増刷、LINEでつながりづくり出前講座、相談活動充実資料の配付、運用事業「お困りごと、おつなぎガイド」の作成	531,741円
西	地域がイキイキ！つながりスタートアップ事業、あんしん見守りカレンダーの配付、KWN（西区自立支援協議会）と連携した西区健康・福祉フェア、神戸市西区授産施設製品等販売促進支援事業	1,000,000円

⑤区社協実施事業への支援

地域における住民相互の助け合いや交流を促進するため、住民主体のコミュニティづくりや、福祉活動を行うボランティアの育成を進めるなど、区社協で実施する事業や、区ボランティアセンターの運営などに対して助成した。

⑥区社協役員協議会の開催

市・区社協の理事長などの役職員が一堂に会し、地域福祉の推進に向けた意見交換などを行うことにより、“こうべ”の社会福祉協議会として、今後の進むべき方向性について、共通認識を深めた。

日 時：令和5年2月6日（月）

場 所：神戸市立 中央区文化センター 1階多目的ルーム

内 容：コロナ禍で問いかけてられていること

～生活困窮や社会的孤立への支援、災害支援に社会福祉協議会ができること～

講 師：高橋 良太 氏

社会福祉法人 全国社会福祉協議会

地域支援部長 全国ボランティア・市民活動振興センター長

参加者：80名

(2) 地域支え合い活動推進事業の推進

サービス提供主体の多様化と地域資源の充実に向けた「生活支援体制整備事業」を全市で実施した。

①生活支援コーディネーターの配置

区社協に生活支援コーディネーターを配置し、地域の関係団体のネットワークによる課題や資源の情報共有、地域に不足するサービスの立ち上げを支援した。

生活支援コーディネーター連絡会を月1回開催し、地域支え合い活動推進事業の進捗状況や地域福祉活動推進のための取り組みに関する情報交換と課題の協議等を行った。今年度は、新任生活支援コーディネーターを対象にオリエンテーションを実施。第1層生活支援コーディネーターの役割や地域への関わりの視点を学び、資源開発に

ついて社協の強みを活かした実施に繋げる一助とした。

また「事例検討から生活支援コーディネーターが必要な技術を理解し習得することで、高齢者の生活環境を豊かにする」をテーマとした研修を2回開催し、生活支援コーディネーターの情報交換会開催に向けた協議の場を京都市社協・大阪市社協・堺市社協とZoomで共催実施し、生活支援コーディネーターの資質向上につながった。

さらに近畿ブロック政令指定都市社会福祉協議会「生活支援コーディネーター実践交流会」を担当市として開催し、「活動の発信、見せ方見え方、生活支援コーディネーターのアピール力」をテーマに事例検討を中心に、KPT法等のグループワークを行い、よりよい実践へと繋げ、資質向上を図った。

②協議体機能を有する会議等の運営

協議体機能を有する会議等を区社協の生活支援コーディネーターが中心になって、高齢者の生活支援に関わる住民組織・事業者・NPO・社会福祉法人・行政等の地域の関係団体のネットワークづくりと新たな資源開発の場として運営し、高齢者の生活ニーズの現状と地域資源の情報等を共有し、地域で不足するサービスの立ち上げ支援、担い手不足等の課題に対して共通認識を持った。(全市開催実績 8回)

③つどいの場支援事業の推進

地域住民などによって自主的に運営され、身近で高齢者のだれもが自由に参加できる、「つどいの場」を充実させるため、区社協の生活支援コーディネーターを中心に、運営に関する助言や情報提供、活動について現状・課題等の把握を行い、つどいの場が継続するよう支援を行った。

(申請 208 グループ 内コロナ禍の影響等で中止 4 グループ)

(3) 地域資源情報(つどいの場・通いの場)の集約

地域住民やボランティアによるつどいの場や通いの場の活動等の地域資源を区社協・あんしんすこやかセンターと連携しながら全市的に把握し、一元管理するための集約・更新を継続的に行った。(全市合計：1,792箇所<R5.3.31最新>)

(4) 重層的な見守りネットワーク構築の推進

ひとり暮らしの高齢者等を対象に見守り活動、閉じこもり防止活動や日常生活支援活動について、きめ細かな支援を行うとともに、関係者の協力のもと全市的な支え合い活動を支援した。主な取り組みとして、各区における民生委員・児童委員の協力による「高齢者見守り調査」や見守り活動の支援、また、ボランティアによる友愛訪問活動(全市：1,225グループ)やふれあい給食活動(全市：244グループ)、テレホンサポート事業(全市ボランティア数：65名)を実施し、住民による見守り活動を支援した。

新型コロナウイルスの影響により、活動が制限される中、手紙や電話、LINE等による見守り活動を行い、ふれあい給食活動においては、高齢者宅への配食や、高齢者が会場に弁当等を受け取りに来る等の代替的な活動への転換を支援した。

区社協が本事業の調整及び各あんしんすこやかセンターへの支援など事業推進の中心的な役割を担っており、区社協を支援するための推進方策の検討や活動費助成・事業費の補助を行った。

神戸市民生委員児童委員協議会事務局の運営

(1) 事業内容

神戸市民生委員児童委員協議会の運営を担い、区民児協の連絡調整、民生委員・児童委員の資質向上のための研修会等の開催、関係機関との連絡調整、全国会議等への参加調整、表彰及び慶弔に関する事務並びに、民生委員・児童委員一斉改選に伴う事務を行った。また互助共済事業を行い、会員に対して共済給付を行った。

①常任理事会（民生委員児童委員部会）等の開催

毎月1回 第3木曜日開催（11回）、理事会2回

②全国会議等への参加調整

指定都市社協・民児連連絡協議会 書面

近畿ブロック府県・指定都市民生委員・児童委員関係事業会議（8名）

全国民生委員児童委員大会（9名）

全国児童委員・主任児童委員活動研修会（298名）

民生委員・児童委員リーダー研修会（119名）

全国民生委員指導者研修会（2名）

③表彰及び慶弔に関する事務

全国民生委員児童委員連合会会長表彰（2団体および155名）

全国社会福祉協議会会長表彰（12名）

④各種民生委員児童委員研修会等の開催と参加調整

物故民生委員・児童委員顕彰碑合祀祭、社会福祉大会、地区民生委員児童委員協議会会長研修会（市民福祉大学と共催）等

⑤民生委員共済給付金の交付

【市民児協共済】

区分	死亡	配偶者死亡	傷病	配偶者傷病	災害		退任				旧会員死亡			合計
					全焼・全壊・流出	半焼・半壊	10年以上	6年以上10年未満	3年以上6年未満	3年未満	15年以上	10年以上	3年以上	
件数	9	25	33	11	0	0	240	196	107	11	8	1	4	645
金額 (千円)	270	250	231	55	0	0	2,400	1,568	642	55	160	10	20	5,661

⑥ICT化の推進

令和3年度に9名の常任理事にタブレットの配布を行ったことに続き、全地区民児協会長（166地区）へのタブレットの配布（計175地区）と講習会を年度当初配付時と一斉改選後に開催した。

(2) 民生委員・児童委員活動の推進

社会福祉協議会として民生委員・児童委員活動を推進するため以下の事業を実施した。

①地区民生委員児童委員協議会会長研修会（市民福祉大学と共催）

②民生委員互助事業の実施

民生委員活動の振興をはかることを目的に、全国社会福祉協議会の実施する民生委員互助事業について、弔慰、見舞・退任慰労等に関する給付事務を行った。

【全社協民生委員互助事業】

区分	公務死亡	一般死亡	配偶者死亡	公務傷害疾病	一般疾病		災害		退任			合計
					2 カ 月 以 上	2 カ 月 未 満	全 壊 ・ 大 規 模 半 壊	半 壊	15年 以 上	9 年 以 上 15 年 未 満	3 年 以 上 6 年 未 満	
件数	0	9	25	10	22	4	0	0	163	153	228	614
金額 (千円)	0	270	355	320	220	32	0	0	1,141	765	684	3,787

福祉団体、NPO やボランティアグループへの助成

(1) 善意銀行の運営

金銭、物品を預託として善意銀行で受け入れ、福祉活動を行っている団体・施設に払い出しを行った。

①金銭預託・払出実績

預託 件数	預託金額	払出先	払出 件数	払出金額
35 件	2,909,861 円	児童福祉の事業を行う団体	4 件	178,000 円
		障害者福祉の事業を行う団体	2 件	110,000 円
		児童福祉施設等入所児童へ就学助成	7 件	2,100,000 円

②物品預託・払出実績

預託物品	預託数量	払出先	数 量
野球観戦チケット	26 冊	児童福祉関連施設	26 冊
車いす	4 台	高齢者福祉関連施設	2 台
		地域福祉関連団体	2 台
靴下	2,800 足	児童福祉関連施設	2,000 足
		地域福祉関連団体	800 足
消毒液	906 本	児童福祉関連施設 障害者福祉関連施設 高齢者福祉関連施設	906 本
食 品、お弁当	18 団体	地域福祉関連団体、 子どもの居場所づくり関連団体 児童福祉関連施設、教育機関等	—
日用品	2 団体	高齢者福祉関連団体	—

災害支援の取り組み

(1) ウクライナ戦争被害に対する神戸市内避難者への支援募金

ウクライナ戦争被害に対する神戸市内避難者への支援募金を実施し、避難者の神戸市内での生活支援のために配分を実施した。

- ①実施期間 令和4年4月11日(月)～令和4年12月30日(金)
- ②寄付件数 238件
寄付額 6,877,903円
- ③配分使途 戦災避難者の支援を行う支援団体を通じて避難者の意向を聴き、有識者及び神戸市関係部局、関係団体、本会事務局長で構成する募金配分委員会で協議して決定した。

	配分内容	配分時期・対象・配分所要額
1次配分	市内の移動旅費の支援を求める意見が多数であったため、ICOCAカード、子どもICOCAカードを配布。	配分時期：令和4年8月～11月 配布対象：大人70人、子ども5人 所要額：1,487,500円
2次配分	1次配分と同じく、市内の移動旅費の支援を求める意見が多数であったため、ICOCAカード・子どもICOCAカード(チャージ費用)を配布	配分時期：令和5年1月～4月 配布対象：大人68人・子ども4人 所要額：1,436,640円

※1 令和5年度に、3次配分の実施を予定している。

※2 3次配分後の残額については、日本赤十字社が実施する「ウクライナ人道危機救援金」への寄付を予定している。

(2) トルコ・シリア地震災害救援募金

令和5年2月6日に発生した、トルコとシリアの国境付近を震源とする地震により被災した現地の方々を支援するための災害救援募金を実施した。

- ①実施期間 令和5年2月15日(水)～令和5年4月28日(金)
- ②寄付件数 288件
寄付額 11,200,080円(「令和5年3月31日現在」)
- ③使途 日本赤十字社が実施する「2023年トルコ・シリア地震救援金」への寄付を予定している。

民間社会福祉施設の振興

民間社会福祉施設の職員処遇の向上と経営安定を図るため、退職手当共済及び福利厚生事業を実施するとともに、施設行事・運営の支援を行った。また、施設部会において、社会福祉法の改正、社会福祉法人の公益的活動等、新たな国の方針に対応した社会福祉法人・社会福祉施設運営の課題について協議を行った。

(1) 施設部会の開催

神戸市への予算要望などを通じて民間社会福祉施設の諸課題に取り組んだ。

(2) 人材確保・定着のための支援

- ①「民間社会福祉施設職員退職手当共済事業」の実施
神戸市内の民間社会福祉施設の経営者ならびに従事職員の相互扶助を目的とした退

職手当共済事業を実施した。

令和3年度から、①退職手当給付金額の計算方法を前年度末までの掛金累計額に年2.0%の複利をつける計算へ変更、②退職手当給付金の支払い要件の加入期間を変更、③事務負担金の創設、④目標とする運用利率を3.1%から2.0%に引き下げるといった制度改定を行った。

その結果、運用が好調であったことも手伝って、令和3年度財政決算では3億2900万円の余剰が出た。さらに安定した運営を行えるようになるまで、この度の改定内容を維持する。

区 分	令和4年度	令和3年度
年度末加入者	11,220人	9,838人
退職者数	1,395人	1,296人
給付金	684,147,229円	623,823,815円

②「民間社会福祉事業職員福利厚生事業」の実施

国内研修費を各種別施設連盟に助成し、社会福祉士・介護福祉士等の国家試験合格者に祝金を給付し、勤続15年の職員に永年勤続記念品を贈呈した。

また、家庭用常備薬や自動車保険・火災保険等の集団扱制度の斡旋を実施した。

区 分	令和4年度	令和3年度
国内研修費	480,000円	408,888円
合格祝金	438,000円(146人)	564,000円(188人)
永年勤続記念品	980,980円(119件)	1,210,440円(147件)
合 計	1,898,980円	2,183,328円

(3) 民間社会福祉施設職員激励会

施設に勤務する職員の日頃の労をねぎらい勤続5年の市長感謝状を贈呈するための激励会は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止。

(4) 施設運営助成の実施

各連盟実施行事・研修等への助成 7件

(5) 新春福祉関係者のつどい

市内の福祉施設や福祉団体の関係者が一堂に会し交流と親睦を深めるための新春福祉関係者のつどいについては、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、8月時点で中止を決定した。

多様な福祉活動参加の推進

(1) 社会福祉法人連絡協議会（ほっとかへんネット）の活動支援

各区の社会福祉法人連絡協議会（ほっとかへんネット）の活動の活性化を図るため、各社会福祉法人連絡協議会（ほっとかへんネット）の事務局（区社協）で、内容や進め方、方向性等について共有・検討した。

(2) 神戸市社会福祉大会の開催

市民の福祉推進の決意を新たにするとともに、社会福祉事業の協力者、功労者の功績を顕彰する社会福祉大会について、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から大会の開催を中止とした。なお、協力者・功労者として推薦のあった方について、推薦委員会

により決定し、感謝状を郵送した。

理事長感謝状受賞者	社会福祉事業協力者	金品の寄贈	10人、22団体
		奉仕活動	26人、49団体
	永年勤続功労者	256人	

(3) 共同募金運動・歳末たすけあい募金運動の推進

市内9区が「共同募金運動」及び「歳末たすけあい募金運動」の推進を通じて福祉活動の基盤づくりに努めた。

また1月から3月は運動拡大期間とし、新たな手法による募金や寄付者の開拓に向けた募金活動を行った。

①共同募金活動（期間 令和4年10月1日～令和5年3月31日）

区別	目標額	実績額※	区別	目標額	実績額※
東灘	6,200,000円	6,000,467円	長田	4,426,000円	4,366,020円
灘	6,572,000円	6,387,630円	須磨	4,763,000円	4,495,577円
中央	7,908,000円	7,654,827円	垂水	4,678,000円	4,573,911円
兵庫	6,700,000円	8,078,324円	西	5,587,000円	8,779,701円
北	6,889,000円	6,830,302円	合計	53,723,000円	57,166,759円

※上記実績額のうち拡大期間（令和4年1月～3月）の実績額

区別	実績額※	区別	実績額	区別	実績額
東灘	実施していない	兵庫	1,723,667円	須磨	3,776円
灘	310,330円	北	446,356円	垂水	304,096円
中央	965,991円	長田	141,245円	西	290,368円
				合計	4,185,829円

②歳末たすけあい募金（期間 令和4年12月1日～12月31日）

区別	目標額	実績額	区別	目標額	実績額
東灘	6,000,000円	6,238,764円	長田	3,264,000円	3,025,480円
灘	2,036,000円	2,372,221円	須磨	1,409,000円	1,189,245円
中央	3,300,000円	3,829,040円	垂水	2,322,000円	2,319,936円
兵庫	1,800,000円	1,318,163円	西	1,630,000円	1,630,000円
北	5,224,000円	3,838,809円	合計	26,985,000円	25,761,658円

活動を支える体制の強化

(1) 理事会・評議員会等の運営

会議名称	期日	主な議題
理事会	6月13日	評議員選任・解任委員の選任、評議員選任・解任委員会の招集と評議員候補者の推薦について、令和3年度事業報告及び決算について、令和4年度定時評議員会の招集と上程議案について
	6月24日 決議省略	評議員選任解任委員会の招集と評議員選任候補者の推薦について
	12月9日 決議省略	役員賠償責任保険の締結について 職務執行状況の報告について
	1月16日 決議省略	副理事長の選定について 評議員選任・解任委員会の招集と評議員候補者の推薦について
	3月24日	評議員選任・解任委員会の招集と評議員候補者の推薦について、R4年度補正予算について、R5年度事業計画及び予算について、令和4年度第3回評議員会の招集と上程議案について
評議員会	6月28日	理事の選任について、令和3年度事業報告並びに決算の承認について
	12月20日 書面表決	理事の選任について
	3月30日	理事の選任について、令和4年度補正予算一の承認について、令和4年度事業計画及び予算の承認について
監事監査	6月7日	令和4年度事業報告・決算に関する監査
	11月15日	会計監査人との意見交換
評議員選任・解任委員会	6月27日	評議員の選任について
	1月30日	評議員の選任について
	3月27日	評議員の選任について

(2) 部会・委員会の開催

会議名称	期日	主な議題
民生委員児童委員部会	11回開催	民生委員・児童委員による地域福祉活動の推進
地域福祉部会	書面決議	R5 神戸市社会福祉協議会事業計画区社協助成申請の審議、地域福祉推進基金事業予算など

児童福祉部会	6月2日	R3 事業報告・決算
	3月9日	R5 児童福祉基金事業計画・予算、R5 助成申請の審議など
障害者福祉部会	6月2日	R3 事業報告・決算
	3月13日	R5 障害者福祉基金事業計画・予算、R5 助成申請の審議など
施設部会	5月24日	部会員の交代、R3 事業報告、R5 年度神戸市予算に対する予算要望、R5 民間社会福祉施設職員激励会
	8月30日	R4 ワークキャンプ、新春福祉関係者のつどいの中 止、大都市社会福祉施設協議会に関するアンケート、R5 予算要望
	12月6日	今後の大都市社会福祉施設協議会、R5 激励会
	3月3日	R4 施設部会事業報告、R5 事業計画等、R5 市長感謝状贈呈の推薦、民間社会福祉施設職員激励会の方針、大都市社会福祉施設協議会（広島市大会）
神戸市民間社会福祉施設職員退職手当共済・福利厚生事業運営委員会	5月24日	委員の交代、副委員長を選出、退職共済管理システムプログラムミスとその対応について、R3 運用実績、R3 決算報告、資産運用検討委員会報告、加入法人事業実績報告、信託財産拋出
	8月30日	退職共済管理システムのプログラムミスのその後の対応、資産運用検討委員会報告、四半期運用実績、R3 財政決算報告
	12月6日	四半期運用実績、資産運用検討委員会報告、加入法人事業実績報告、信託財産拋出、
	3月3日	R4 決算見込、R4 補正予算、R5 事業計画・予算、委員の選出、資産運用検討委員会報告、R4 実施状況及び決算見込、信託財産拋出、「共済契約申込書」内容の一部変更について
神戸市民間社会福祉施設職員退職手当共済資産運用検討委員会	5月13日	委員交代、副委員長を選出、退職共済管理システムプログラムミスとその対応について、四半期運用実績、運営委員会報告、加入法人事業実績報告、信託財産拋出
	8月3日	四半期運用実績、R3 財政決算、運営委員会報告
	11月11日	四半期運用実績、運営委員会報告、加入法人事業実績報告、信託財産拋出
	2月3日	四半期運用実績、運営委員会報告、R5 事業計画、信託財産拋出

会議名称	期 日	主 な 議 題
市民福祉大学カリキュラム 検討委員会 社会福祉施設従事者研修部 会	1月16日	R4 事業実施状況報告、R5 事業計画
市民福祉大学カリキュラム 検討委員会	3月10日	R4 事業実施状況報告、R5 事業計画
こうべ安心サポート委員会	7月12日	専門部会の活動報告、安心サポートセンター・成年 後見支援センターの活動状況報告など
こうべ安心サポート委員会 安心生活支援部会・成年後 見判定部会	12回開催	成年後見の市長申立てに関する助言
こうべ安心サポート委員会 権利擁護事業部会 事業運用審査委員会	6回開催	日常生活自立支援事業（福祉サービス利用援助事 業）に関する審議・助言（契約締結審査会としても 位置付け）
こうべ安心サポート委員会 権利擁護事業部会 監査委員会	6月20日	日常生活自立支援事業（福祉サービス利用援助事 業）・法人後見事業の利用者の財産管理に関する監 査
こうべ安心サポート委員会 市民後見部会	7回開催	成年後見支援センターの運営、 市民後見人養成研修等に関する助言
こべっこランド運営委員会	3月9日	こべっこランド移転、オープン報告、 R5 年度事業計画
こべっこランド療育指導部 会	3月9日	こべっこランド移転、オープン報告、 R5 年度事業計画
児童館 運営委員会	5月～7月	R3 事業報告、R4 年事業計画
こうべ障がい者芸術フェス タ実行委員会	7月1日	委員選任、R3 決算報告、R4 予算および実施計画
	3月14日	R4 実施報告および決算見込み、R5 予算案および実 施計画
こうべ障害者音楽フェア 実行委員会	7月1日	委員選任、R3 決算報告、R4 予算および実施計画
	3月14日	R4 実施報告および決算見込み、R5 予算案および実 施計画
生駒温子児童福祉事業助成 審査委員会	3月2日	R4 公募助成 申請審議
ボランティア情報センター 運営委員会	6月3日	R3 ボランティア情報センター事業報告案、R3 ボラ ンティア基金事業決算報告案

	3月13日	R5 市社協ボランティアグループ活動助成案、R5 ボランティア基金収支予算案、R5 ボランティア情報センター関連市社協事業計画案
--	-------	--

(3) 市・区社協組織体制あり方検討

市・区社協が連携して地域生活課題への対応を始め地域福祉活動を一層推進すること、法人運営規律の強化を図ること、効率的な事業運営や人が育つ組織体制を構築することを目的に、令和3年度に法人運営に関する課題を検討するためのワーキングチームを立ち上げた。

令和4年度はこのワーキングチームの議論を踏まえ、市・区社協の法人合併も含めた組織体制を協議するため区社協及び市社協の役員で構成する「市・区社協組織体制あり方検討会」を設置し事業推進体制について協議を進めた。

会議名称	期日	主な内容
(仮称)市・区社協組織体制あり方検討会 提案・説明会	4月27日	提案主旨の説明および検討会の進行方法説明
第1回 市・区社協組織体制あり方検討会	8月5日	市・区社協組織体制あり方検討会の概要 市・区社協組織体制洗い方検討会発足にあたって
第2回 市・区社協組織体制あり方検討会	11月29日	市・区社協の法人合併 提案・説明

また、検討会に付議する事項や課題項目の抽出とその対応策について実務者会課題別作業チームを設置し検討を行った。

作業チーム	実施回数	主な内容
組織検討	10回	・組織体制・職員配置、事務分担、事業のあり方 ・区の個性の確保の方法 ・区社会福祉協議会合議体の権限・役割・構成の検討 等
児童館運営検討	11回	・児童館市社協直営化に向けた整理 ・雇用契約の変更・人員配置の整理 ・直営化の管理組織の体制、財源確保 ・児童館勤怠管理システムの導入検討 等
事務処理・システム構築検討	4回	・資金管理の整理、共同募金、善意銀行、ICT等の導入による事務見直し ・専決・委託、意思決定ルールの見直し ・区社協雇用職員・雇用条件の整理 等

(4) 市と区の社協相互連携による機能充実

「市・区社協事業推進・改善検討会議」を開催し、人材育成について検討を行った。令和4年度は全職員が参加するOJT研修を実施するとともに、キャリア育成に関するアンケート等を実施し、今後の職員育成の方策に関する提案を行った。

(5) 新しい時代に適応した人材の育成

①職員の採用

令和4年度は、早期により良い人材を確保するため、新卒者を対象とした採用試験（夏募集）を実施し、応募者74名から主事1名を採用した。

また、定期採用試験（秋募集）においても、応募者の当会への理解を深めることを目的とした採用説明会を実施し、応募者95名から主事7名（専任職からの登用者2名含む）を採用した。

②職員の育成

採用1年目から3年目職員を対象に、勤続11年以上の職員から学び、組織を越えたつながりづくりを目的とする全職員参加型OJT研修「人を識り、仕事を知る」を行った。

ア. 人事評価制度の実施

職員がその職務を遂行するにあたり発揮した能力や挙げた業績を公正に評価し、人事管理を行うことにより、職務成果の向上につなげることを目的に実施した。

イ. 階層別研修

新規採用者研修（規模を縮小して実施）

3級職員研修（神戸市主催：3級職員研修の受講）

課長昇任時研修（神戸市主催：係長昇任時研修の受講）

部長昇任時研修（a. 神戸市主催：課長昇任時研修の受講）

（b. 兵庫県社協主催研修の受講）

新任局長研修（兵庫県社協主催研修の受講）

③適正な業務環境の整備、働き方改革の推進、コンプライアンスの徹底等

文書分類表による文書管理の適正化、時間外労働や年次有給休暇の管理方法の整備などの働き方改革の推進、個人情報保護などのコンプライアンスの徹底に努めた。

(6) 職員災害支援研修の実施

災害ボランティアセンターの運営や市外被災地への応援派遣に関するスキルアップを目的に、本会職員を対象とした階層別研修を実施した。

①第1回災害支援研修「初級」

内 容：動画研修「おしえてくぼた君！」（市社協YouTubeで限定公開）

災害支援に係る基本的な内容を動画視聴によって研修（1つ10～15分程度）

期 間：令和4年9月5日（月）～令和5年1月31日（水）

テーマ：第1回「令和4年度3月福島沖地震 今どうなってるの？」

第2回「支援金と義援金ってなに？」

第3回「コロナ禍のボランティアセンター」

第4回「災害準備金って？」

第5回「地域支えあい活動センター」

第6回「大学生が災害ボランティア？」

第7回「きょうどうがた 災害ボランティアセンター」

第8回「活動資機材」

第9回「どうして社協が災害ボランティアセンター？」

第10回「災害ボランティアセンターをITで省力化！」

②災害支援研修「中級」

内 容：ケースワーク等、実地的な模擬研修

会 場：こうべ市民福祉交流センター 201 教室

日 時：①令和4年10月27日（木）15：00～17：30

②令和4年11月2日（水）9：30～12：00

③令和4年11月2日（水）15：00～17：30

※①～③の内、1回受講

参 加：108人

③災害支援研修「管理職」

内 容：災害救助法の法律や、補助金等のお金の流れなど、災害ボランティアセンターの円滑な設置・運営等について

講 師：楠 聖伸 氏

社会福祉法人 全国社会福祉協議会

地域福祉部 全国ボランティア・市民活動振興センター 副部長

会 場：こうべ市民福祉交流センター 303 教室

日 時：①令和4年11月22日（火）10：30～12：00

② // 13：30～15：00